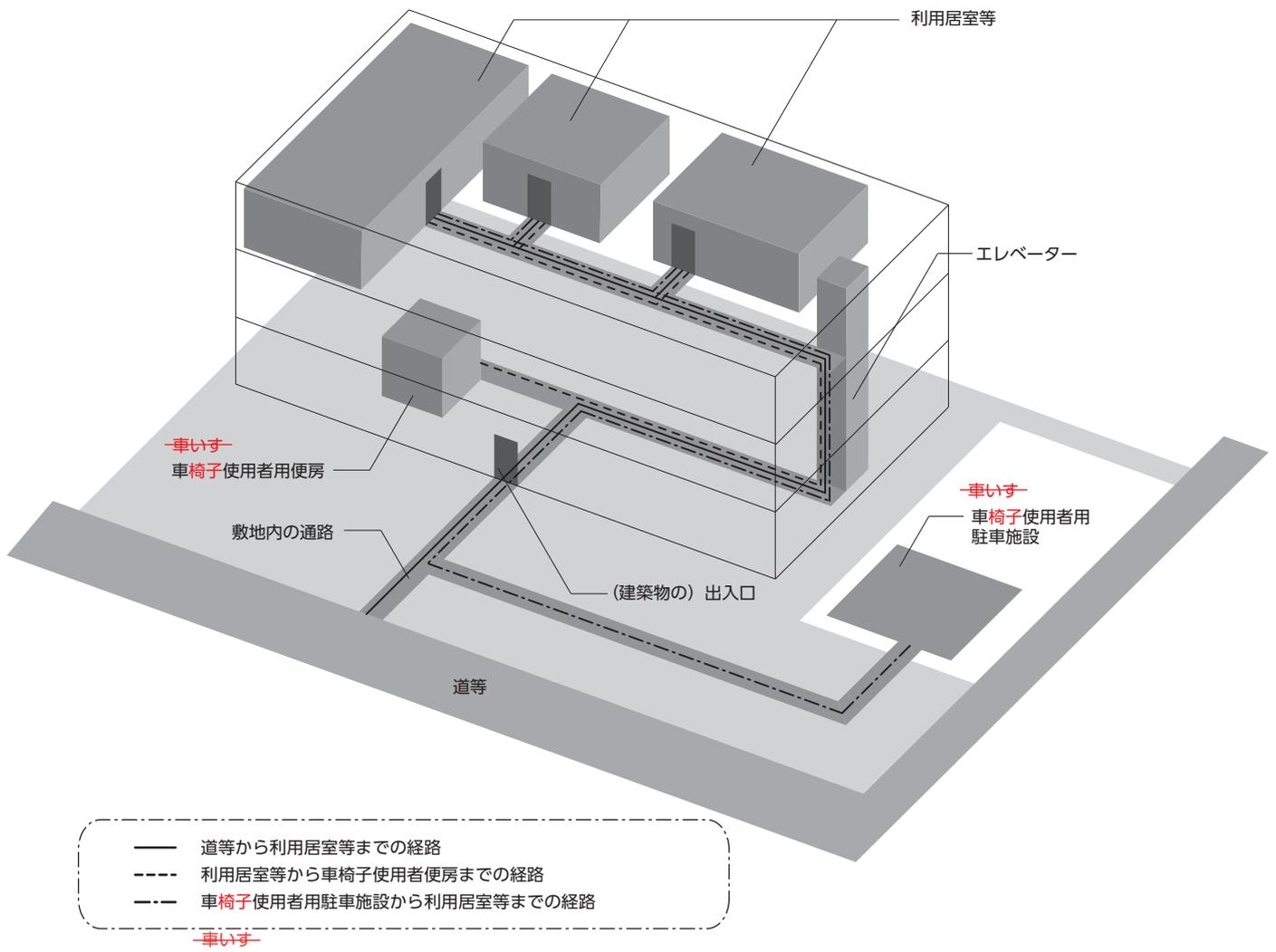


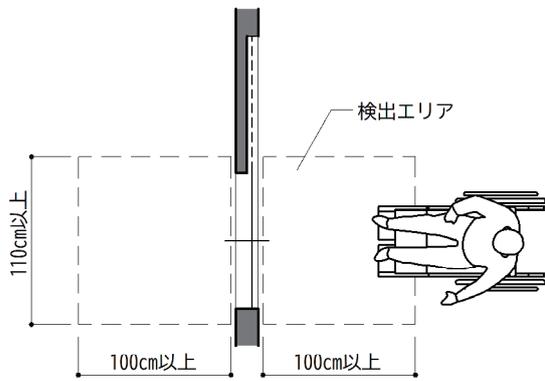
《 参 考 図 》

【図1.1】 移動等円滑化経路等

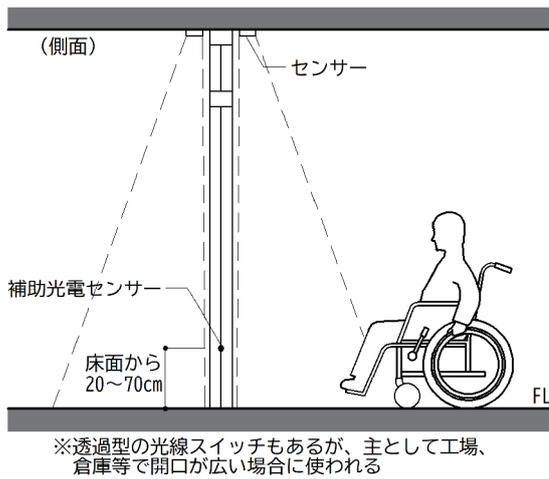
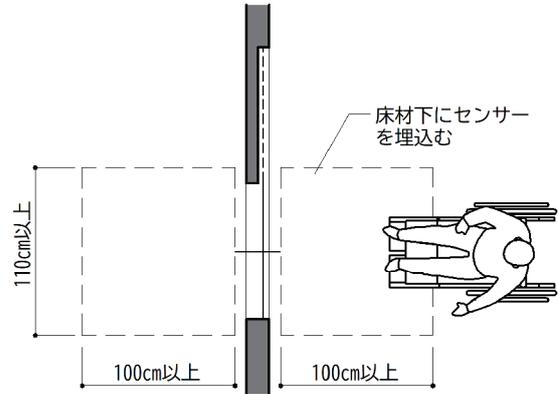


【図2.10】 自動式引き戸の例（有効幅員80cmの場合）

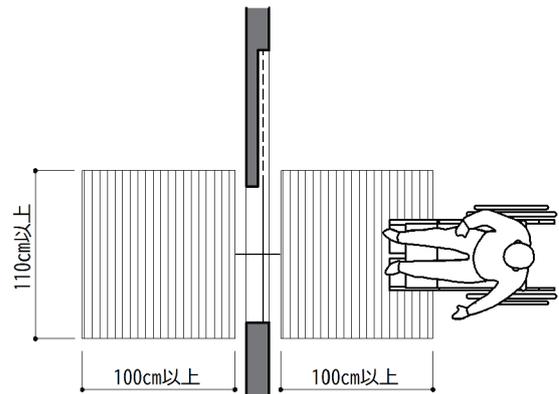
■ 光線式反射スイッチ（平面）



■ 床埋込センサー式スイッチ

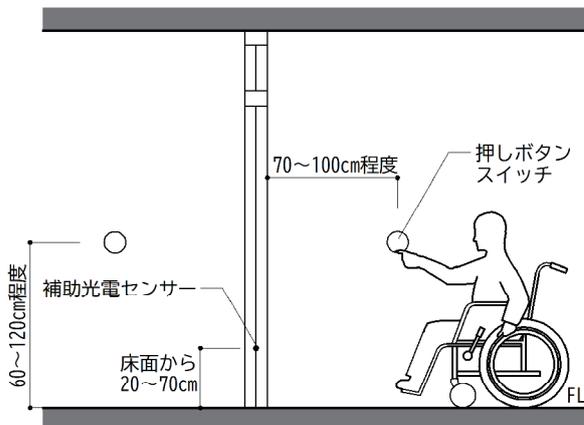


■ マットスイッチ



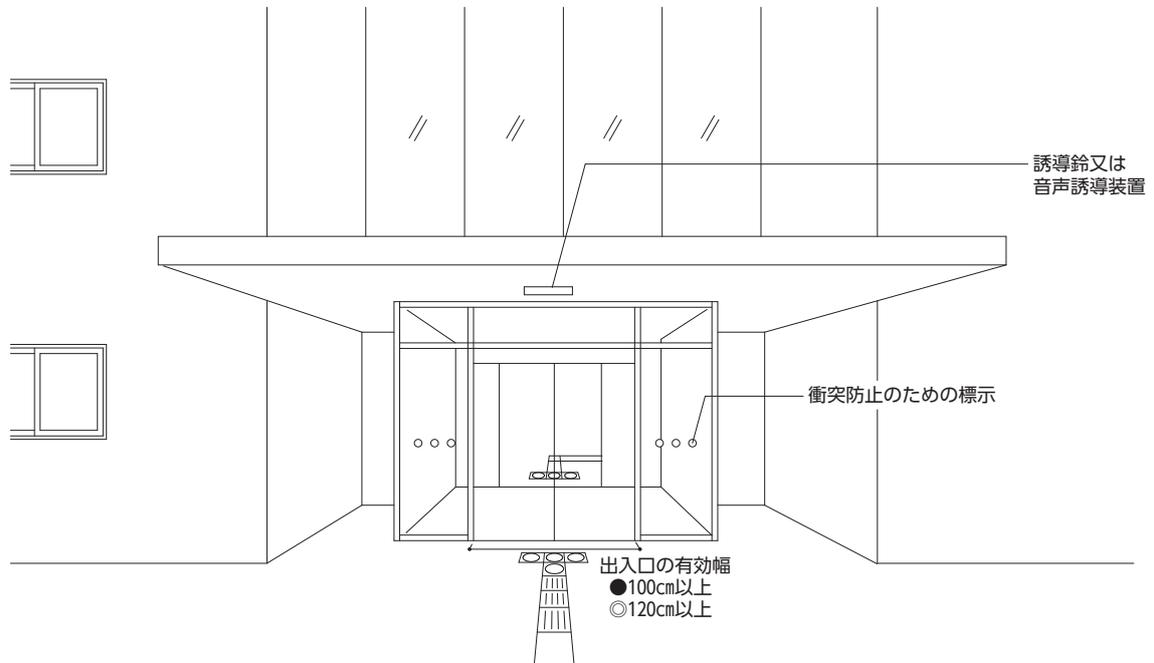
■ 押しボタンスイッチ

・戸に直接設けたスイッチは、車椅子では接近しにくいので、脇に副スイッチも設置する

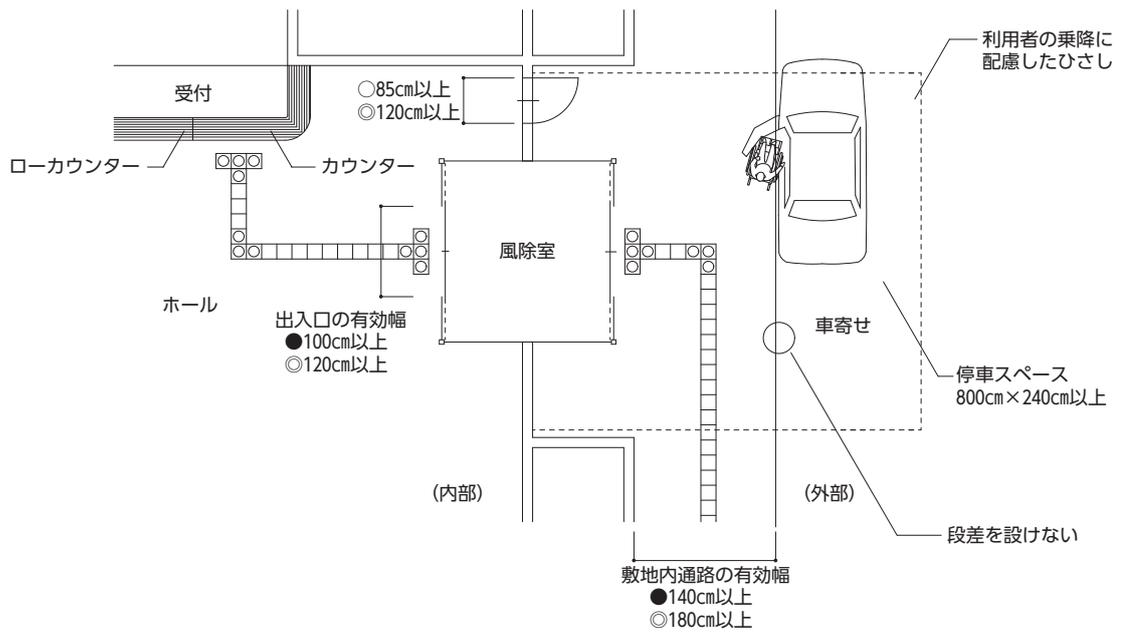


《 参 考 図 》

【図2.1】 主要な出入口の例



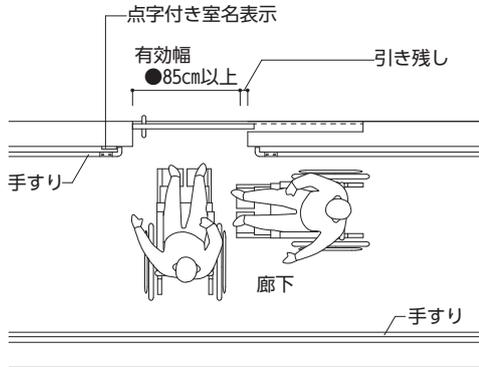
【図2.2】 建物の出入口の例



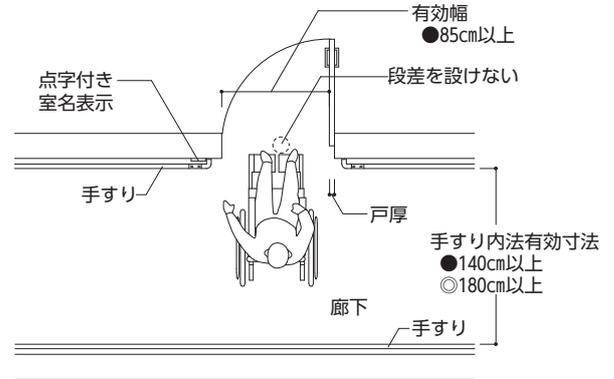
《 参 考 図 》

【図2.3】 戸幅の寸法

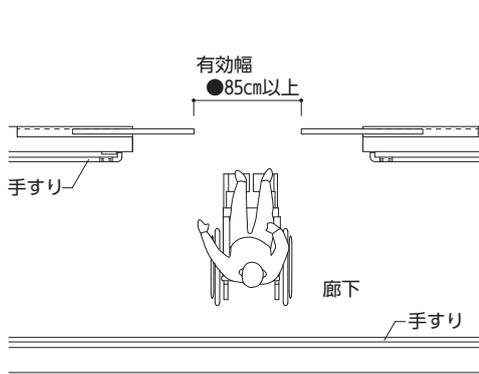
■引き戸の場合



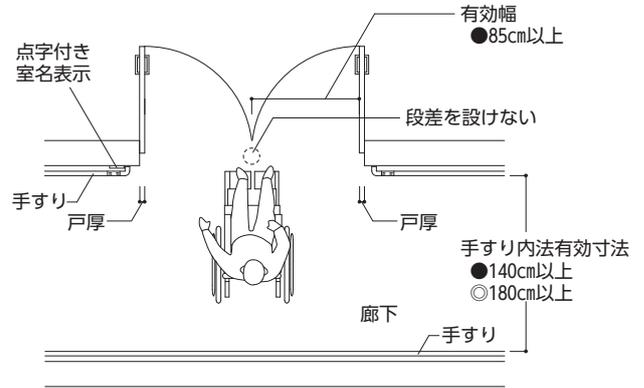
■開き戸の場合



■自動扉の場合

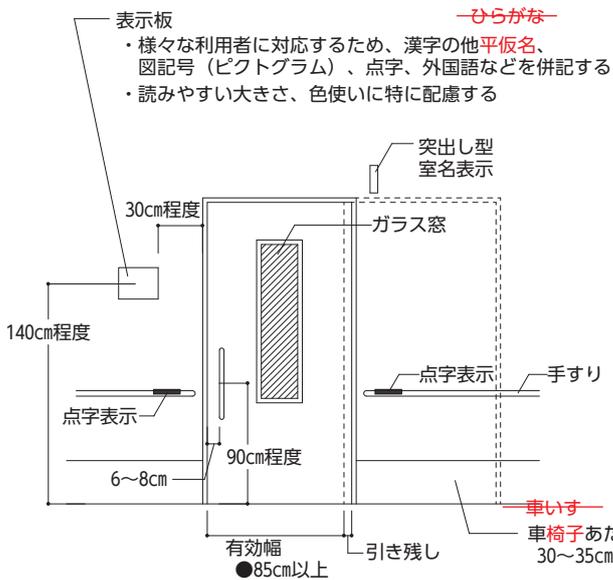


■両開き戸の場合

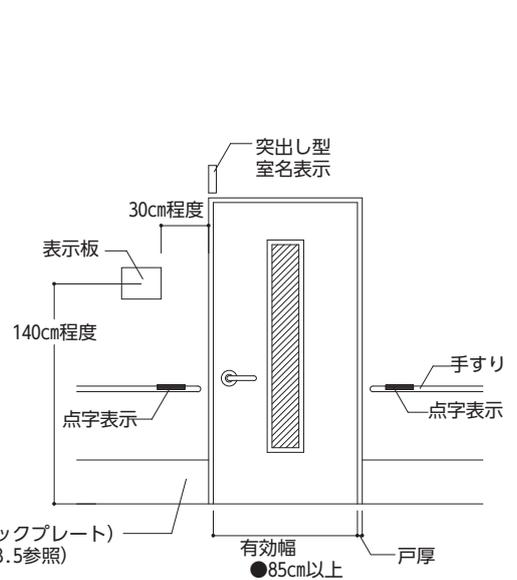


【図2.4】 出入口の例

■引き戸の場合



■開き戸の場合



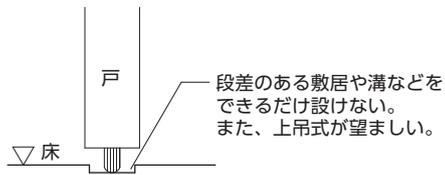
表示板
 ・様々な利用者に対応するため、漢字の他平仮名、
 図記号（ピクトグラム）、点字、外国語などを併記する
 ・読みやすい大きさ、色使いに特に配慮する

—ひらがな—

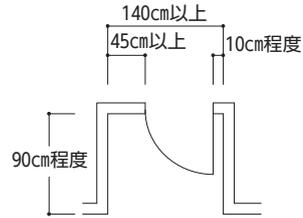
—車いす—
 車椅子あたり（キックプレート）
 30～35cm程度（図3.5参照）

《 参 考 図 》

【図2.5】 引き戸への配慮



【図2.6】 アルコーブの各部寸法



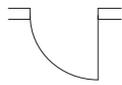
【図2.7】 開き戸への配慮

■内開き ○

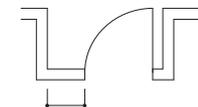
■外開き(アルコーブ付) ○

■外開き ×

廊下

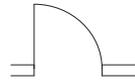


廊下



アルコーブの設置
(アルコーブスペースの開口は広い方が開けやすい)

廊下



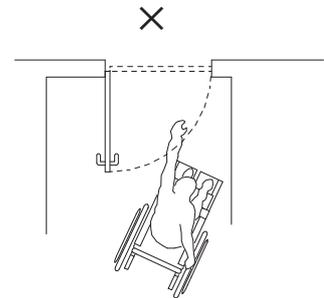
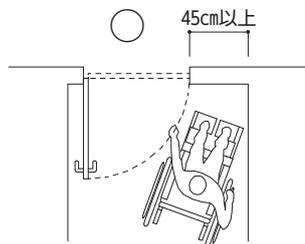
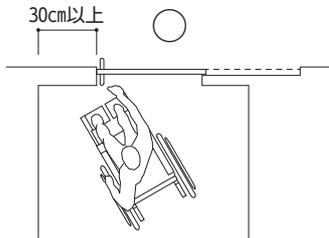
※外開き戸は、高齢者、障害者等の利用を考慮すると好ましくない。そのため建築基準法施行令第118条で内開き戸が禁止されている建築用途にあって外開き戸を設置する際にはアルコーブを設ける等の配慮が必要である。

~~車いす~~

【図2.8】 車椅子使用者のための開閉スペースの設置

■引き戸の場合

■開き戸の場合



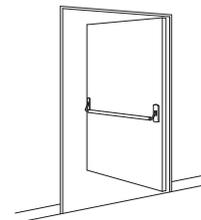
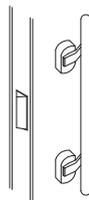
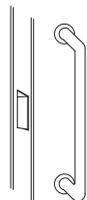
※袖壁は、引き戸の場合は30cm以上、開き戸の場合は45cm以上を確保すると、~~車いす~~ 車椅子使用者が戸を開閉しやすい。また、必要となる袖壁と開閉スペースは、戸の開閉機構、取っ手の形状、周囲の状況等によって異なるため、設計にあたってはそれらを考慮したうえで、袖壁と開閉スペースを確保する。

【図2.9】 取っ手の使いやすさ

■棒状 ○

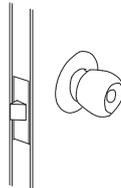
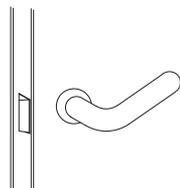
■プッシュプルハンドル ○

■パニックバー ○



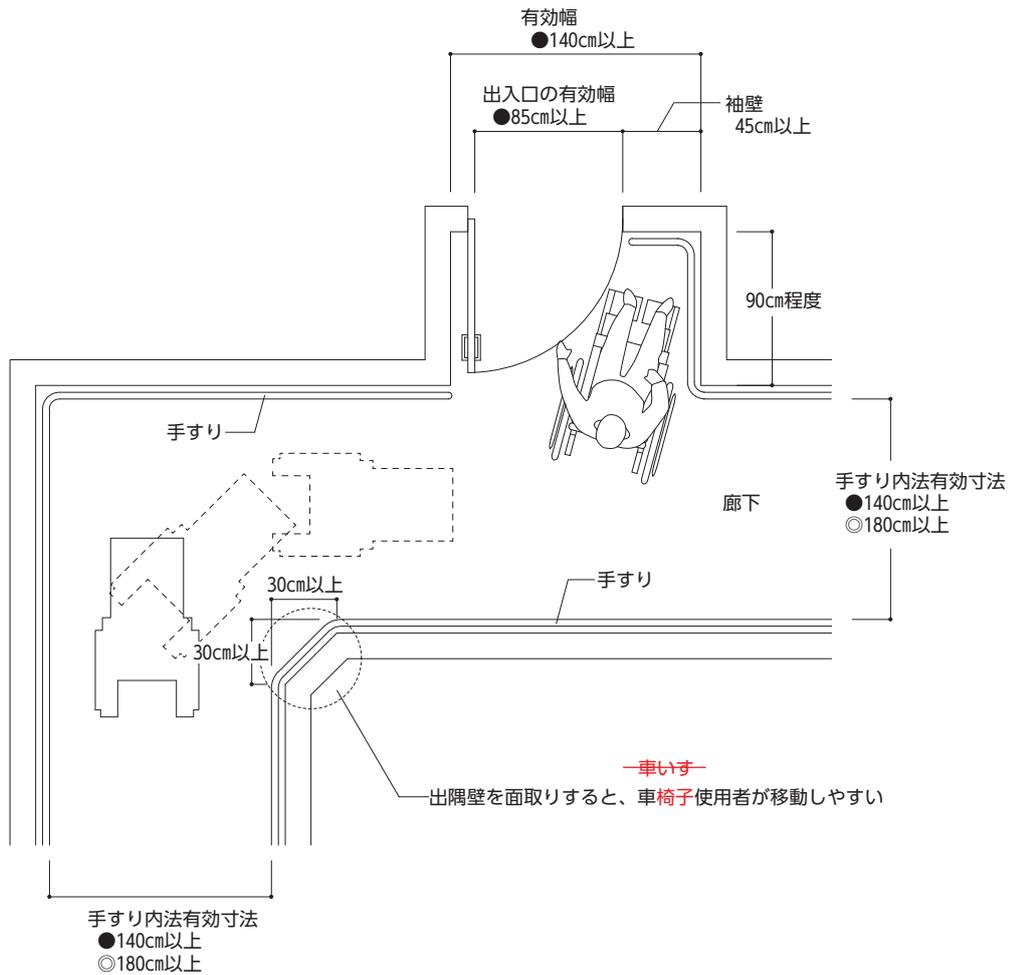
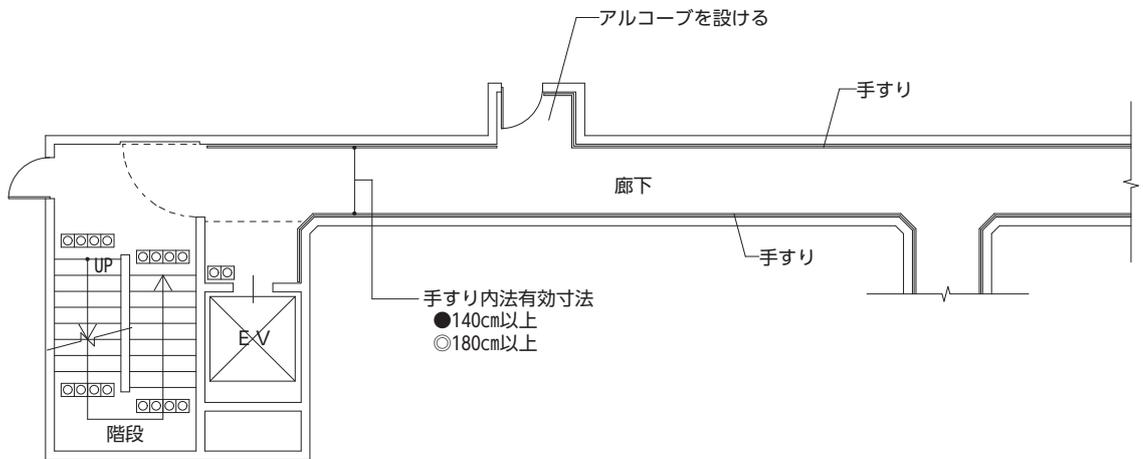
■レバーハンドル ○

■握り玉 ×



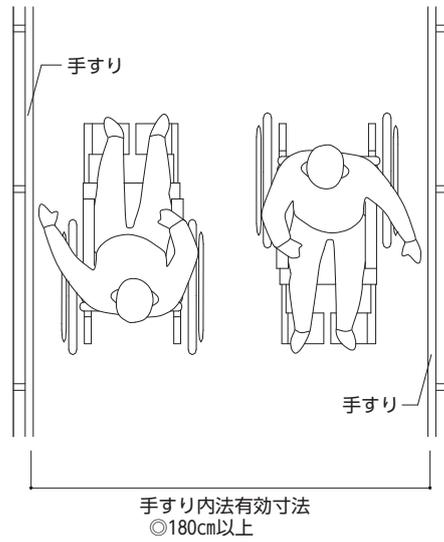
《 参 考 図 》

【図3.1】 廊下の基本的な考え方

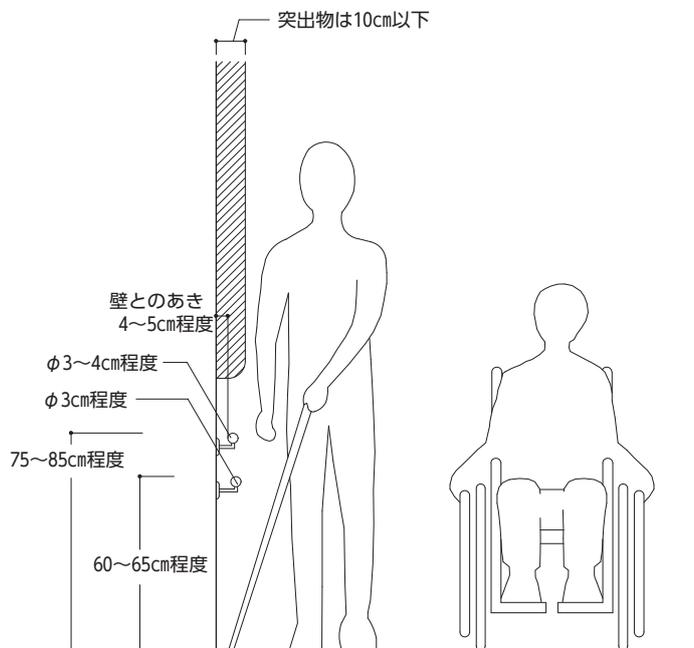


《 参 考 図 》

~~車いす~~
【図3.2】 車椅子使用者同士がすれ違える寸法
(車椅子使用者と杖使用者がすれ違える寸法)
~~車いす~~

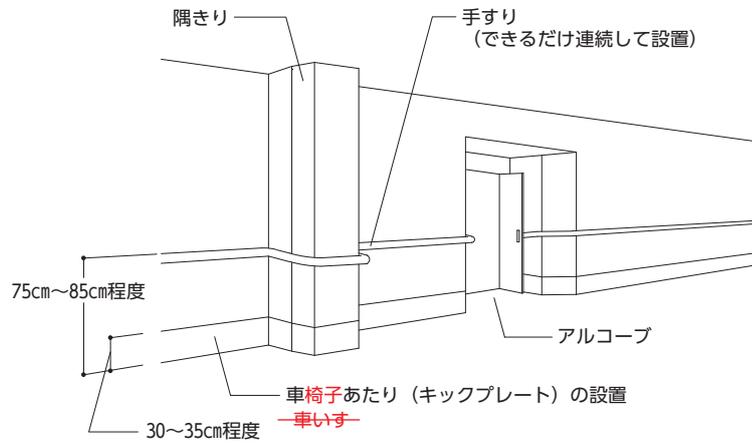


【図3.3】 壁面の配置例



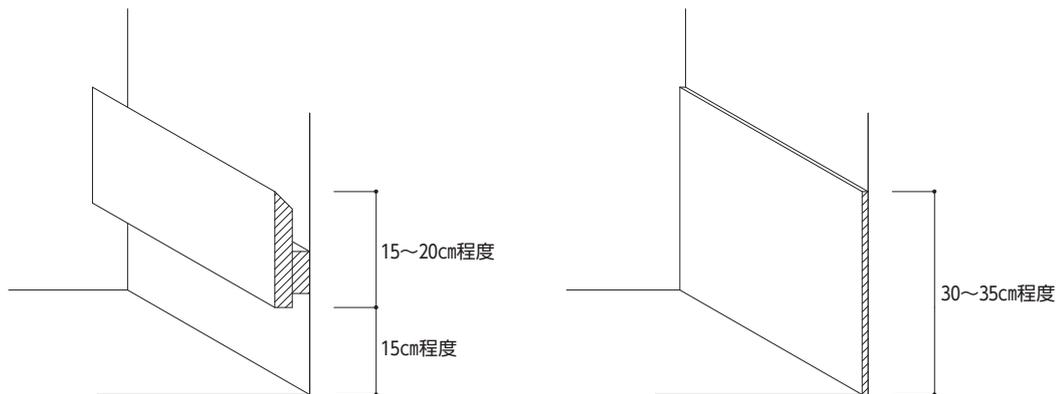
《 参 考 図 》

【図3.4】 廊下に柱型等が出ている場合の手すりの設置例



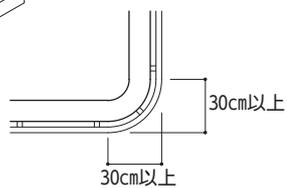
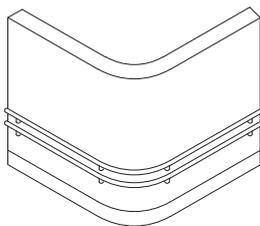
~~車いす~~

【図3.5】 車椅子あたり(キックプレート)の設置例

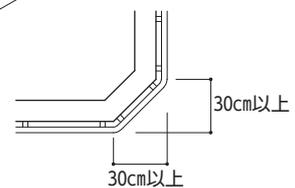
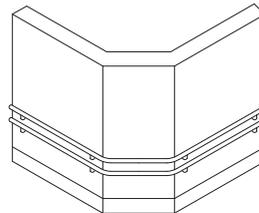


【図3.6】 廊下の角の例

■面取り

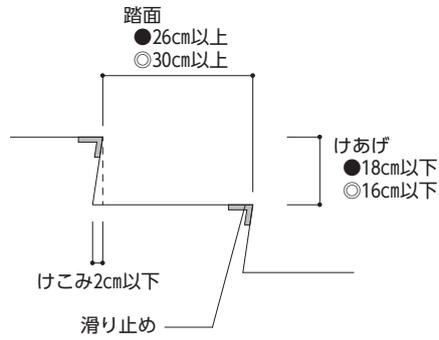


■隅きり

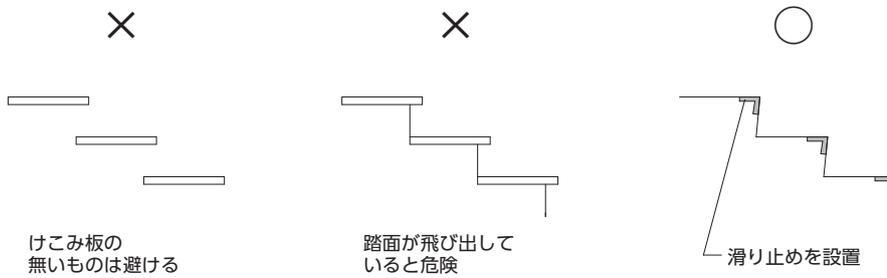


《 参 考 図 》

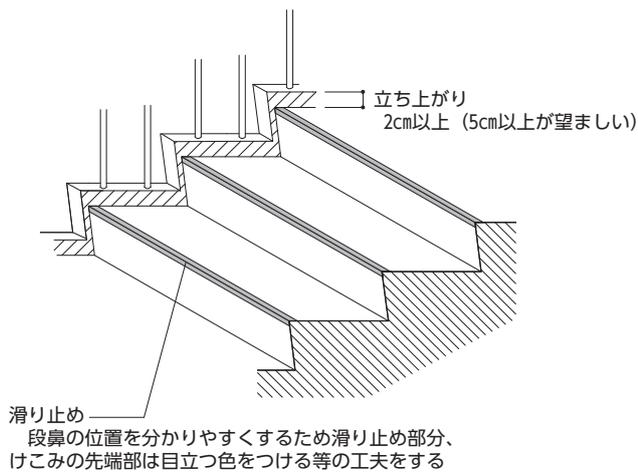
【図4.3】 踏面端部の例



【図4.4】 けあげ、踏面の形状（つまずきにくい構造の例）



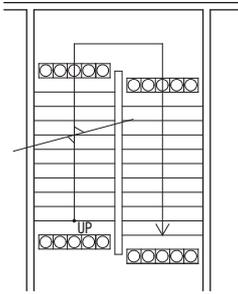
【図4.5】 踏面端部の例



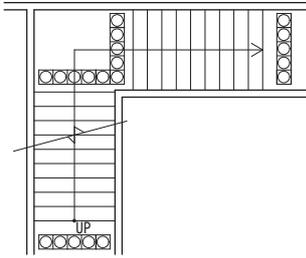
《 参 考 図 》

【図4.6】 階段の形状

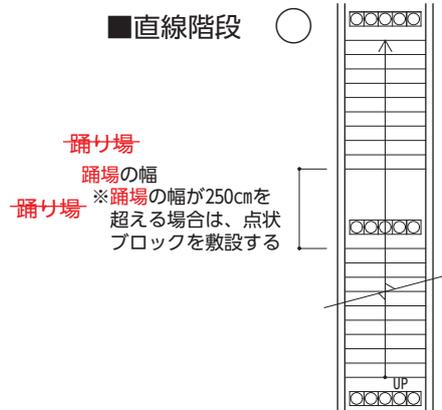
■折返し階段 ○



■折返し階段 ○

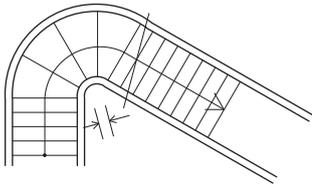


■直線階段 ○



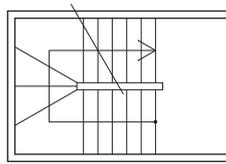
■回り階段 △

(構造上困難な場合に限る。
また踏面の最少寸法は30cm必要)



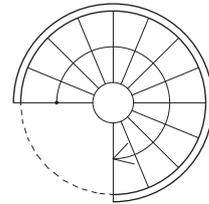
■回り階段 △

(構造上困難な場合等に限る)

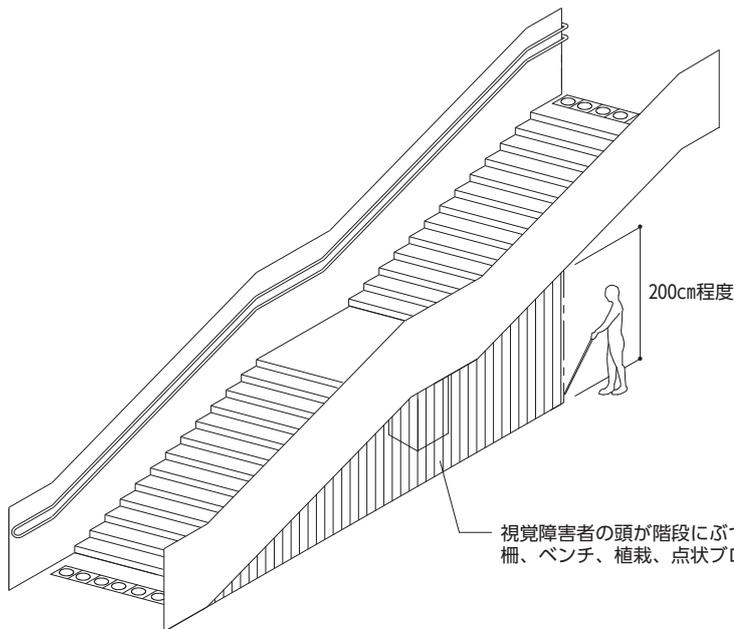


■らせん階段 ×

(らせん階段は主階段としない)



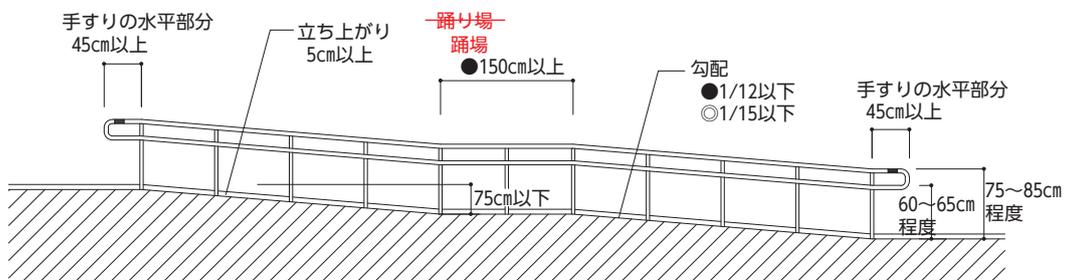
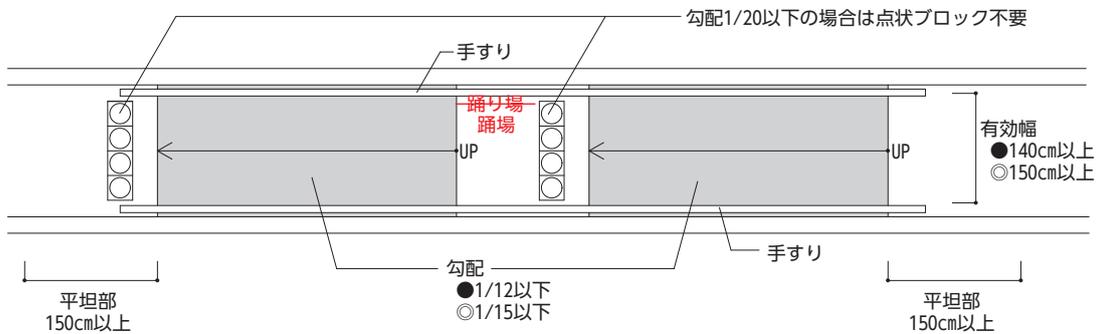
【図4.7】 視覚障害者に対する階段下の安全確保の措置の例



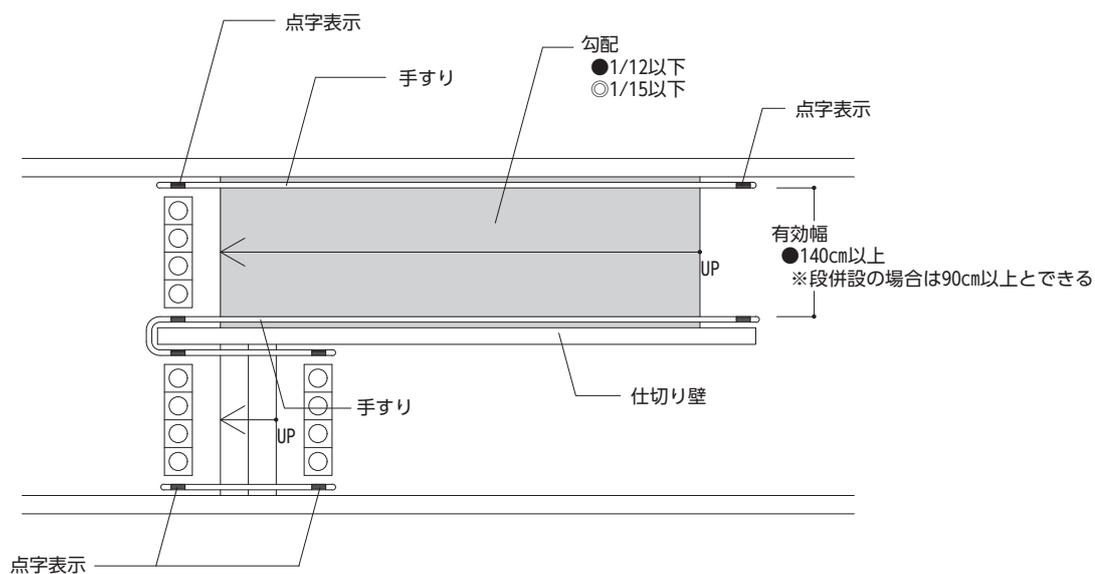
視覚障害者の頭が階段にぶつかる前に杖が当たるように、柵、ベンチ、植栽、点状ブロック等を適宜設ける

《 参 考 図 》

【図5.1】 傾斜路の仕様

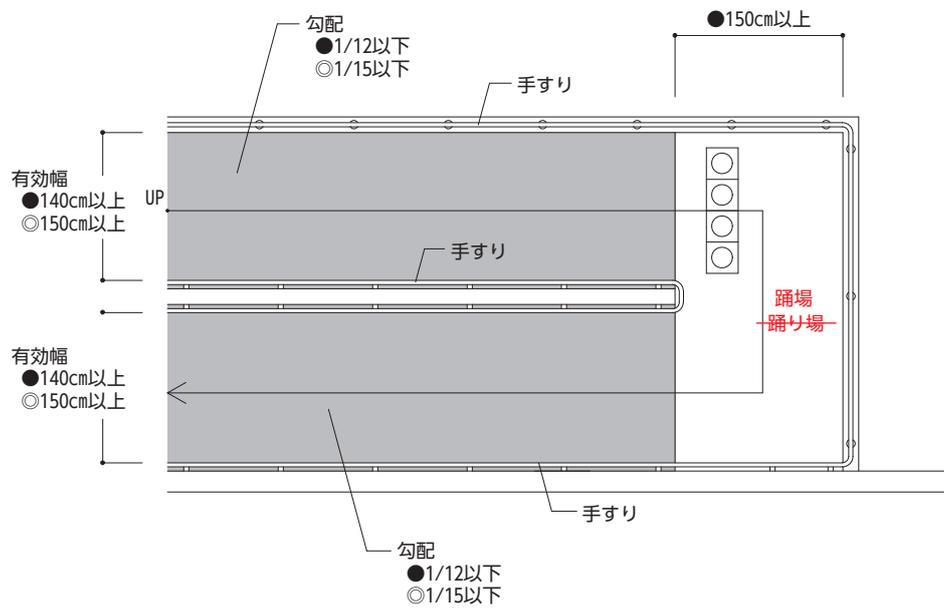


【図5.2】 段併設の例



《 参 考 図 》

【図5.3】 踊場の設置例

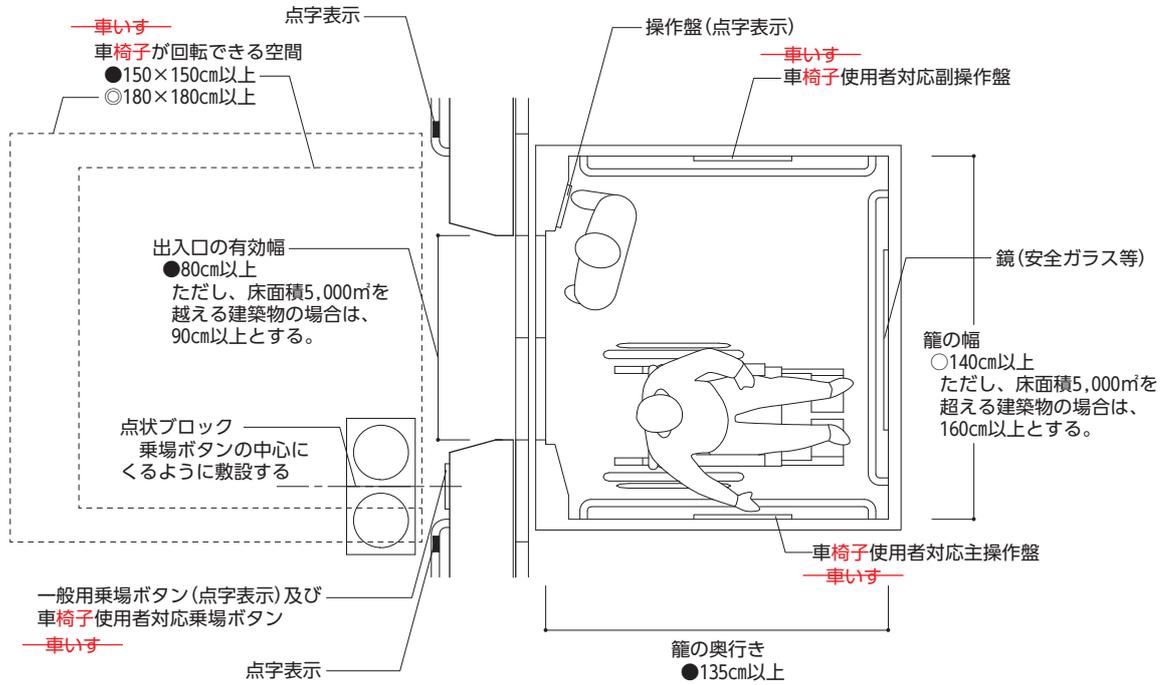


【図5.4】 案内表示例

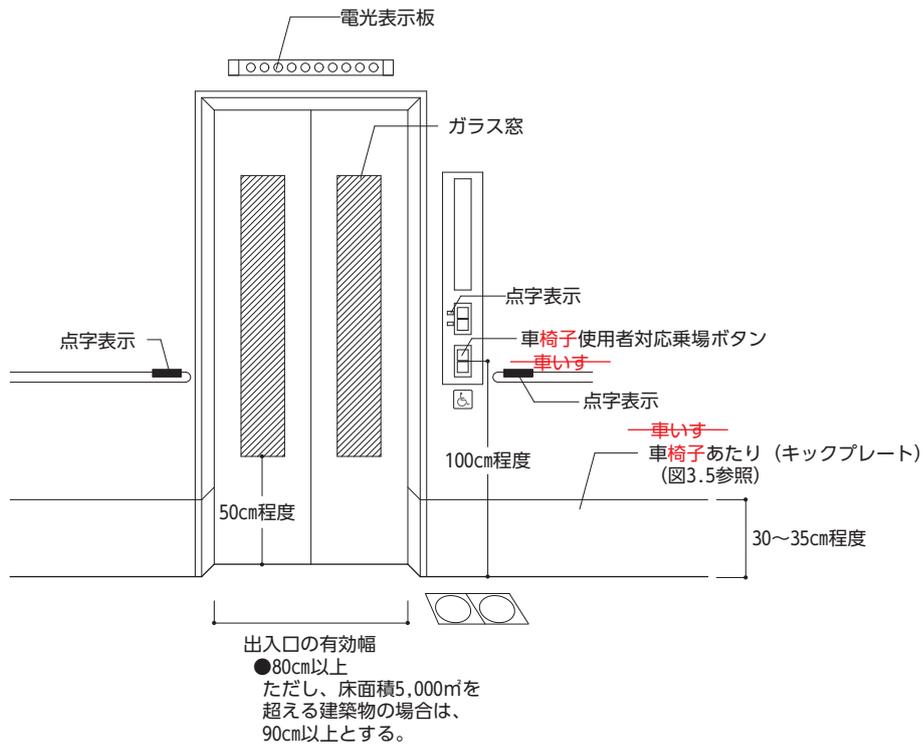


《 参 考 図 》

【図6.1】 エレベーターの平面図



【図6.2】 エレベーターの出入口(乗り場)

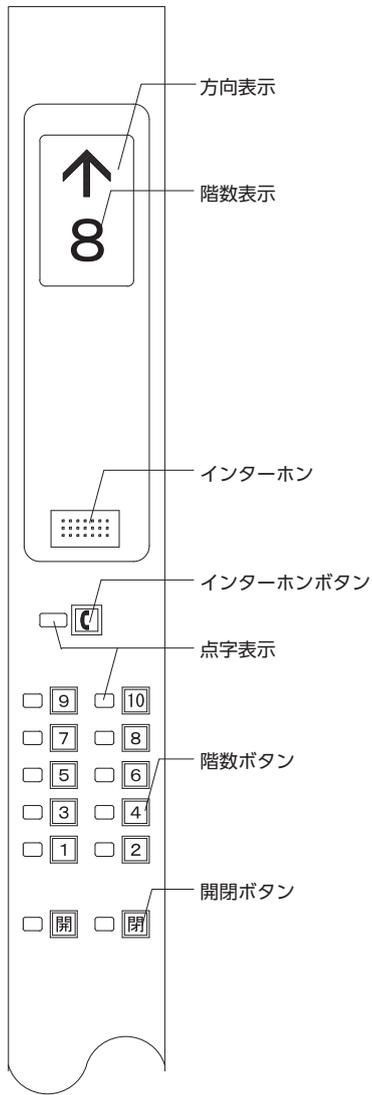


※エレベーター付近に下りの階段若しくは段、又は下りのスロープを設けない。
 やむを得ず設ける場合には、車椅子使用者等の転落防止等に十分配慮する。

車いす

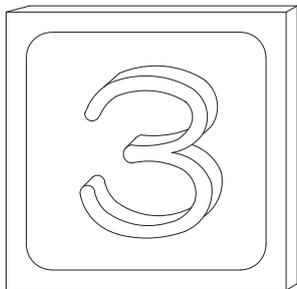
《 参 考 図 》

【図6.4】 縦型操作盤



【図6.7】 階数ボタン

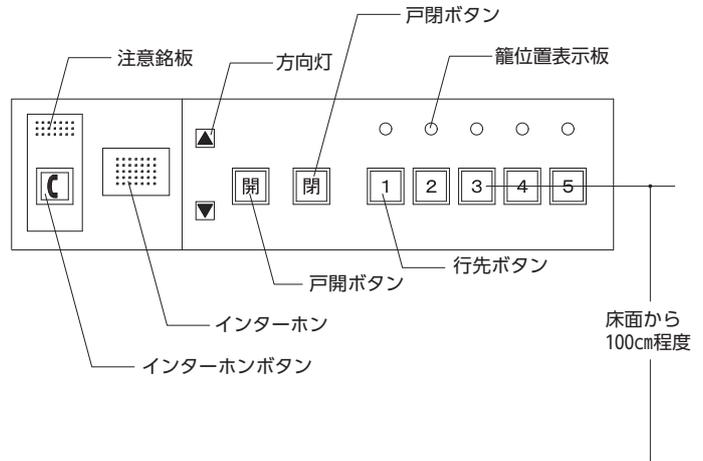
■浮き文字ボタン



※階数ボタンは浮き彫り階数表示が望ましい

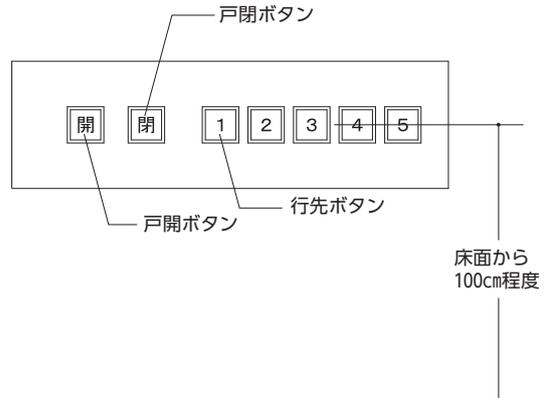
車いす

【図6.5】 車椅子使用者対応主操作盤

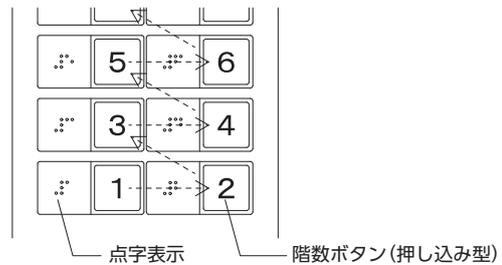


車いす

【図6.6】 車椅子使用者対応副操作盤



■千鳥配列

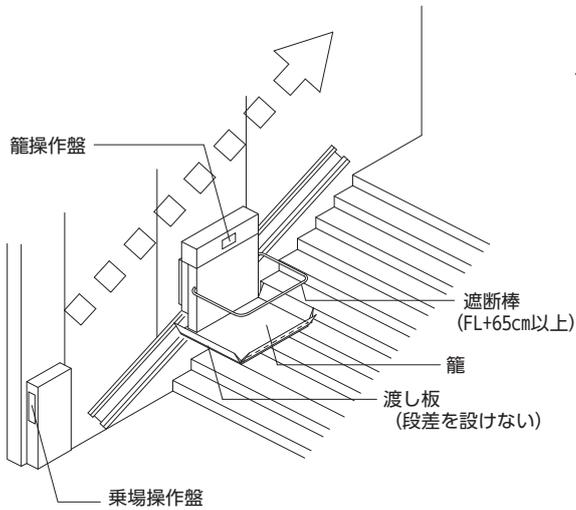


※階数ボタンが2列になる場合は千鳥配列が望ましい

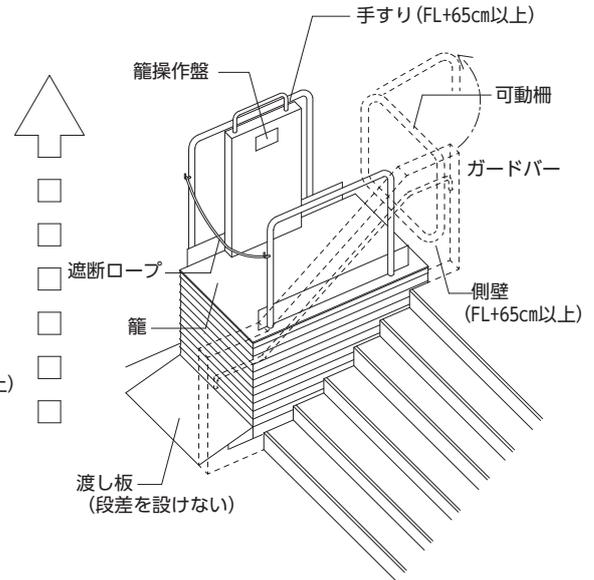
《 参 考 図 》

【図7.1】 斜行型段差解消機

※障害物検知装置を設置した場合
壁又は囲いは設けなくてよい

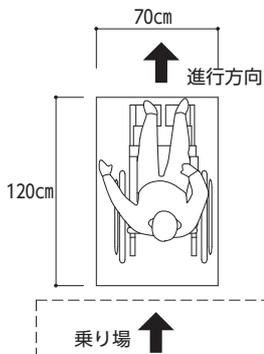


【図7.2】 垂直型段差解消機



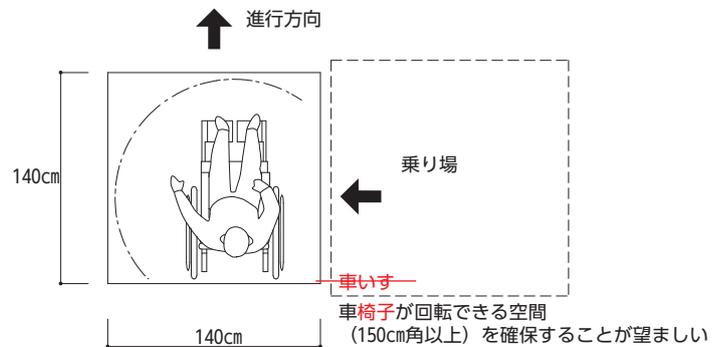
【図7.3】 籠の大きさ

■定員1名の籠（直線形式の場合）



—車いす— 車椅子が回転できる空間（150cm角以上）
を確保することが望ましい

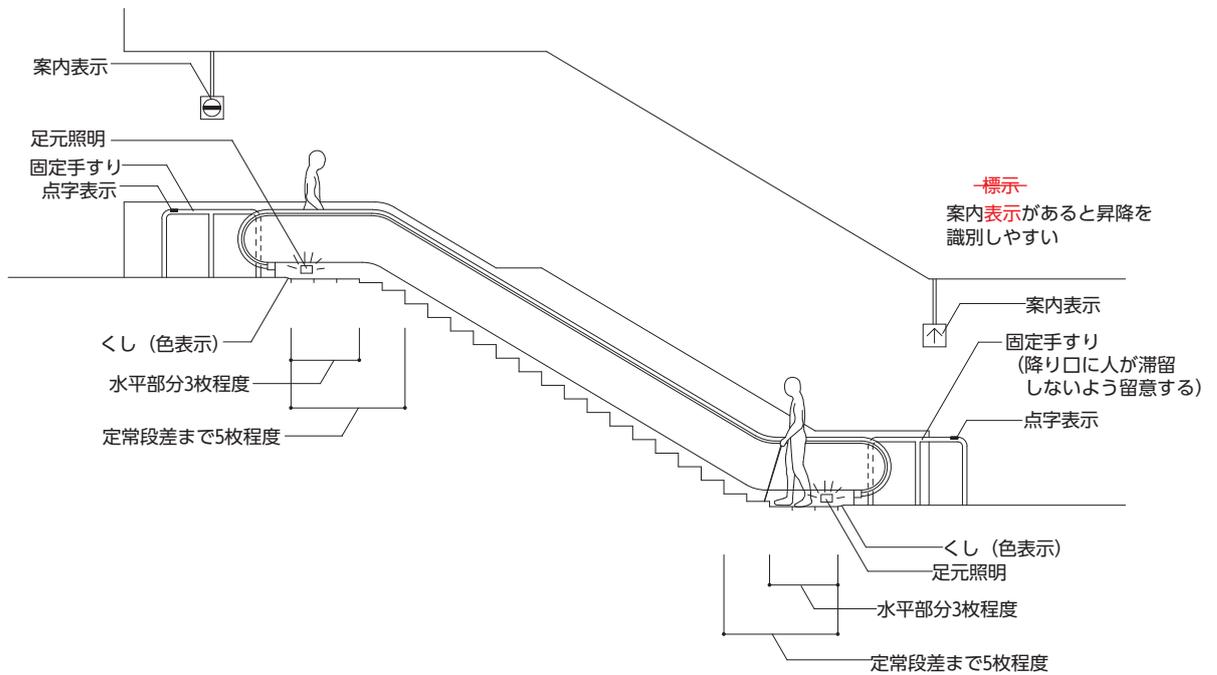
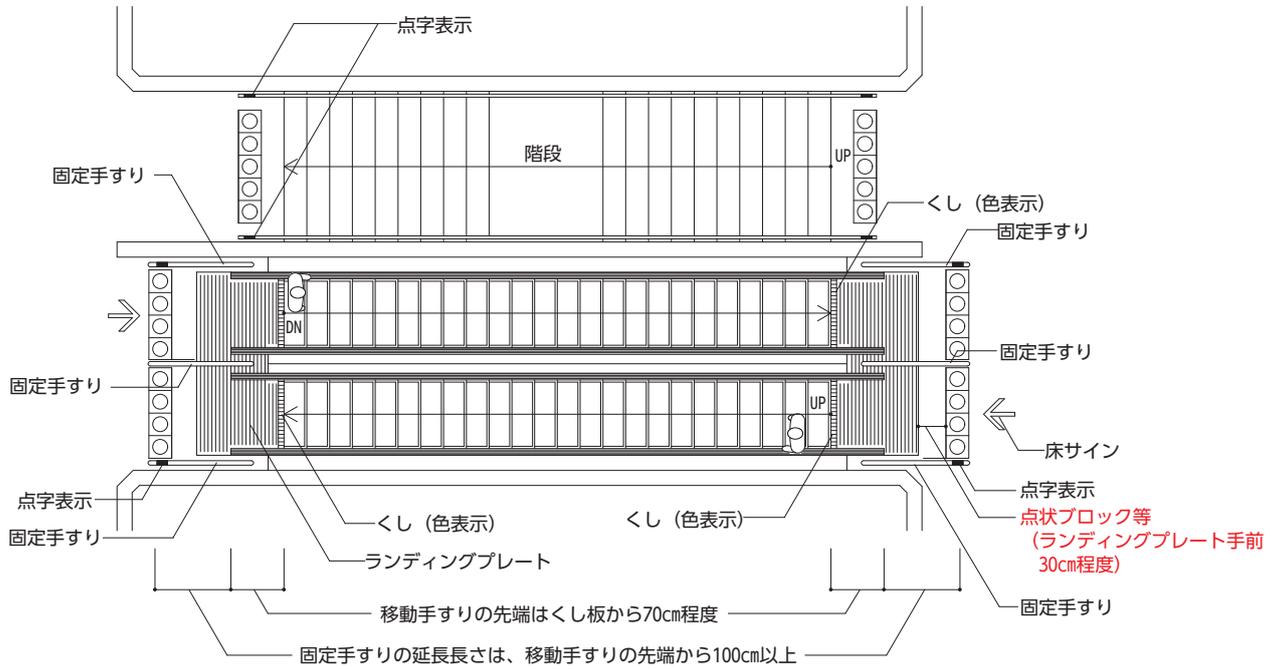
■定員1名の籠（90度の転回形式の場合）



—車いす— 車椅子が回転できる空間（150cm角以上）
を確保することが望ましい

《 参 考 図 》

【図7.4】 エスカレーターの場合

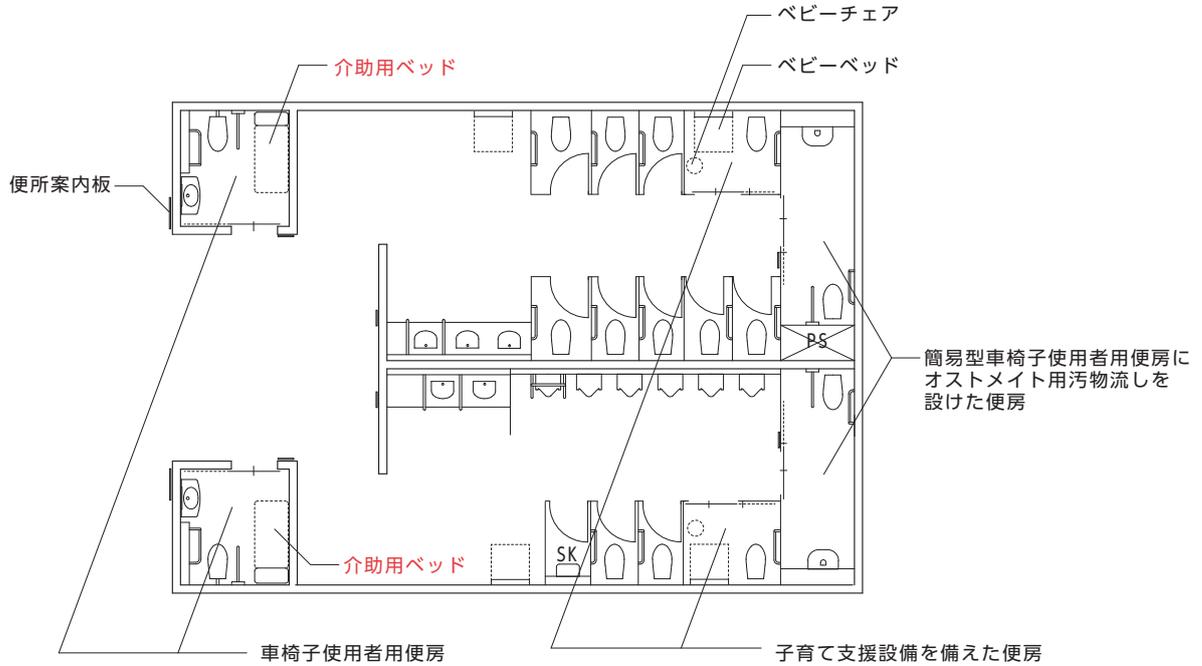


《 参 考 図 》

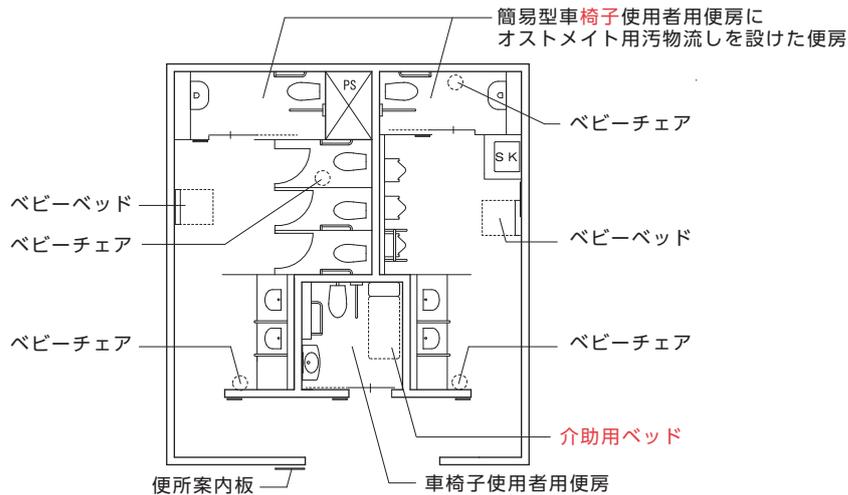
【図8.1】機能分散に配慮した便所の配置例

(1) 車椅子使用者用便房、オストメイト用汚物流し及び子育て支援設備を設けた各便房を分散して設置した例

■多数の車椅子使用者を見込み、複数の車椅子使用者用便房と簡易型車椅子使用者用便房を設置した例



■ベビーベッドを便房の外におき、便房数を確保した例



- ・トイレのピクトグラムは、施設間で異なることにより、利用者が混乱しないように、JIS規格で定められたものとする。
- ・設備や機能の名称を併記する場合でも、できる限りJIS規格等で統一を図ることが重要である。

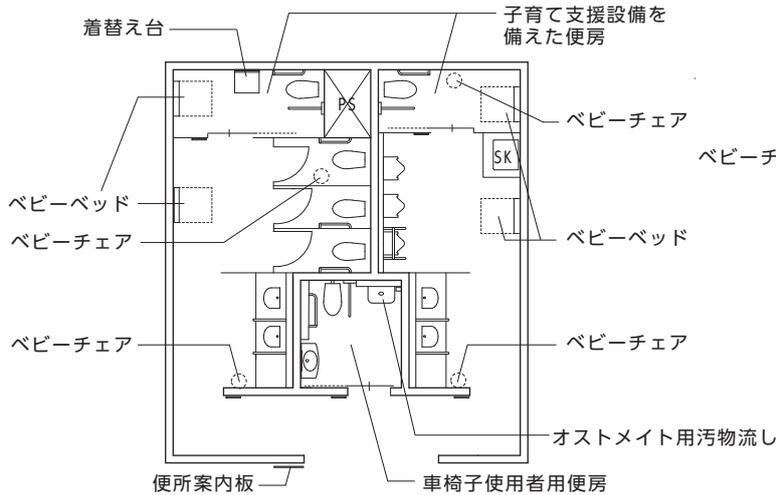
■便房設備の表示例



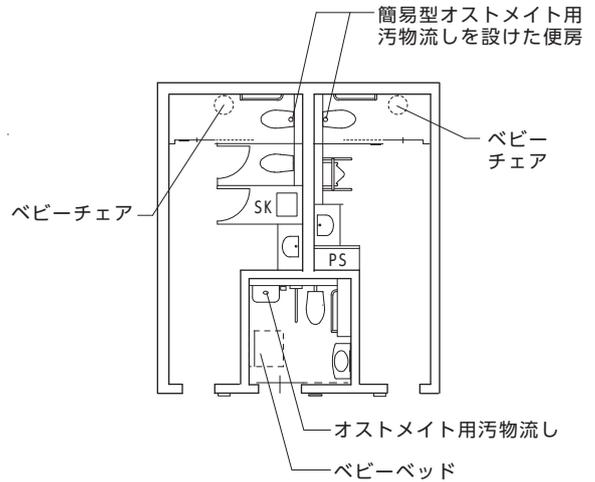
《 参 考 図 》

(2) 全ての機能を分散して配置することが困難である場合で、車椅子使用者用便房に追加して、施設の利用者を考慮した個別の機能を持った便房や簡易型便房を設置した例

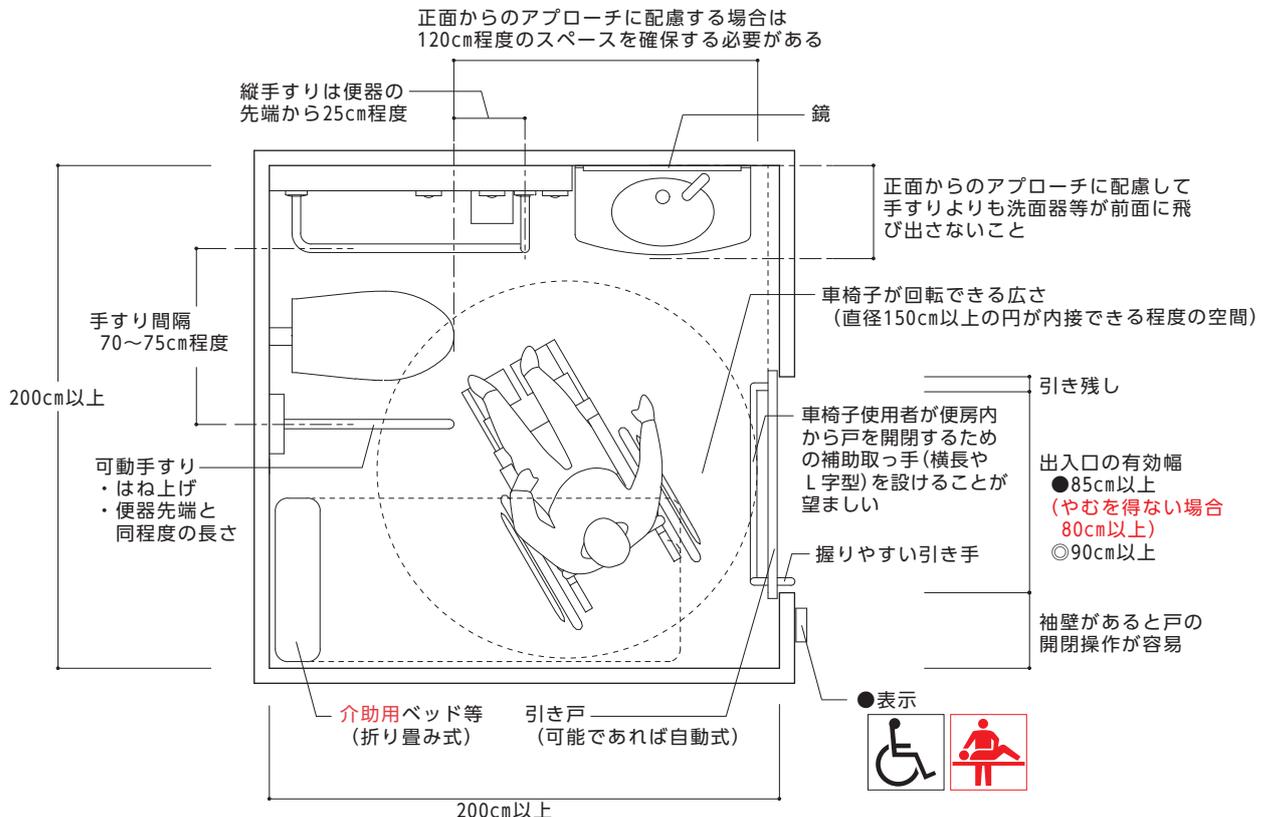
■車椅子使用者用便房と別に子育て支援設備を設けた便房を設置した例（乳幼児連れの利用者が見込まれる施設では利用集中を避ける）



■車椅子使用者用便房と別に簡易オストメイト設備を設けた便房を設置した例



【図8.2】車椅子使用者用便房の例（内法200cm×200cm以上の場合）

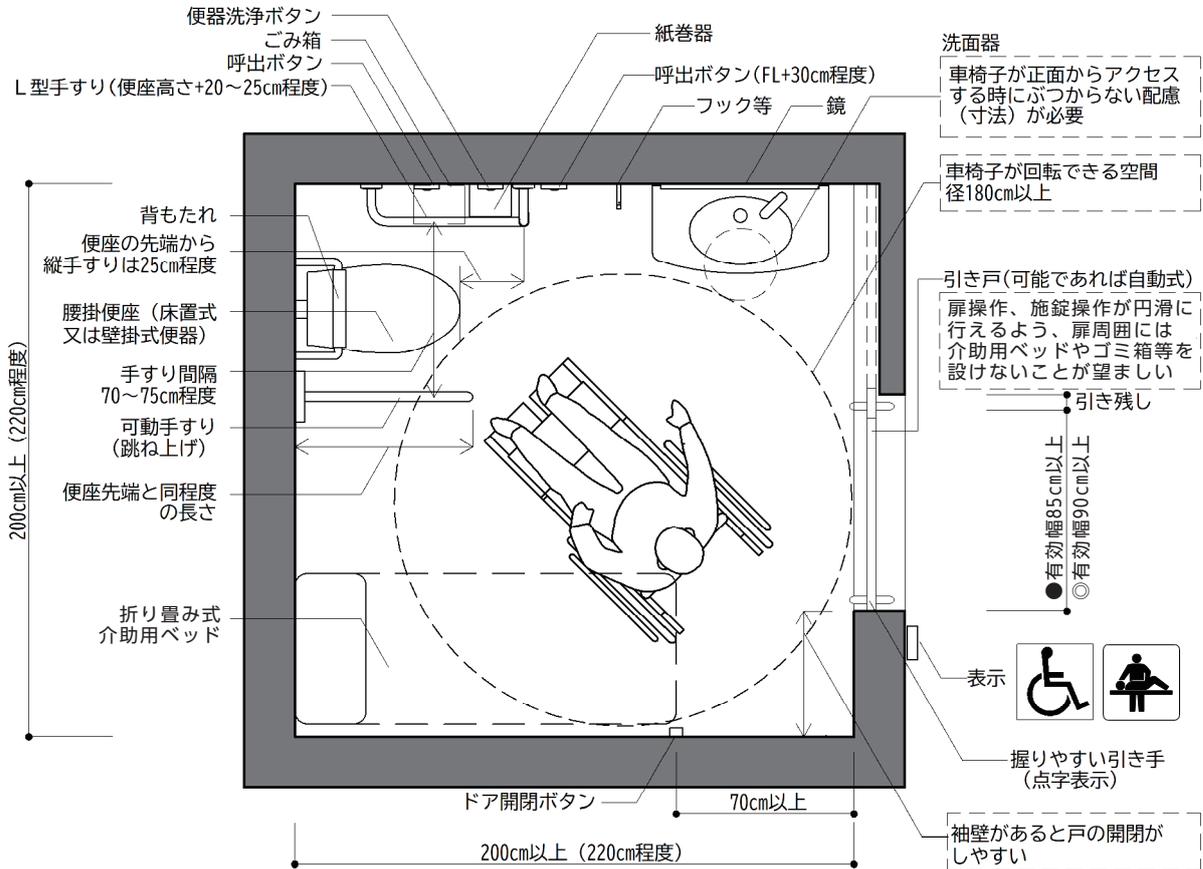


※介助用ベッド：折り畳み式介助用ベッド等を設置する場合、畳み忘れであっても、車椅子での出入りが可能となるよう、車椅子に乗ったままでも畳める構造、位置とすることが望ましい。また、次使用する人のために折り畳んでから退室するよう注意喚起を行う。

《 参 考 図 》

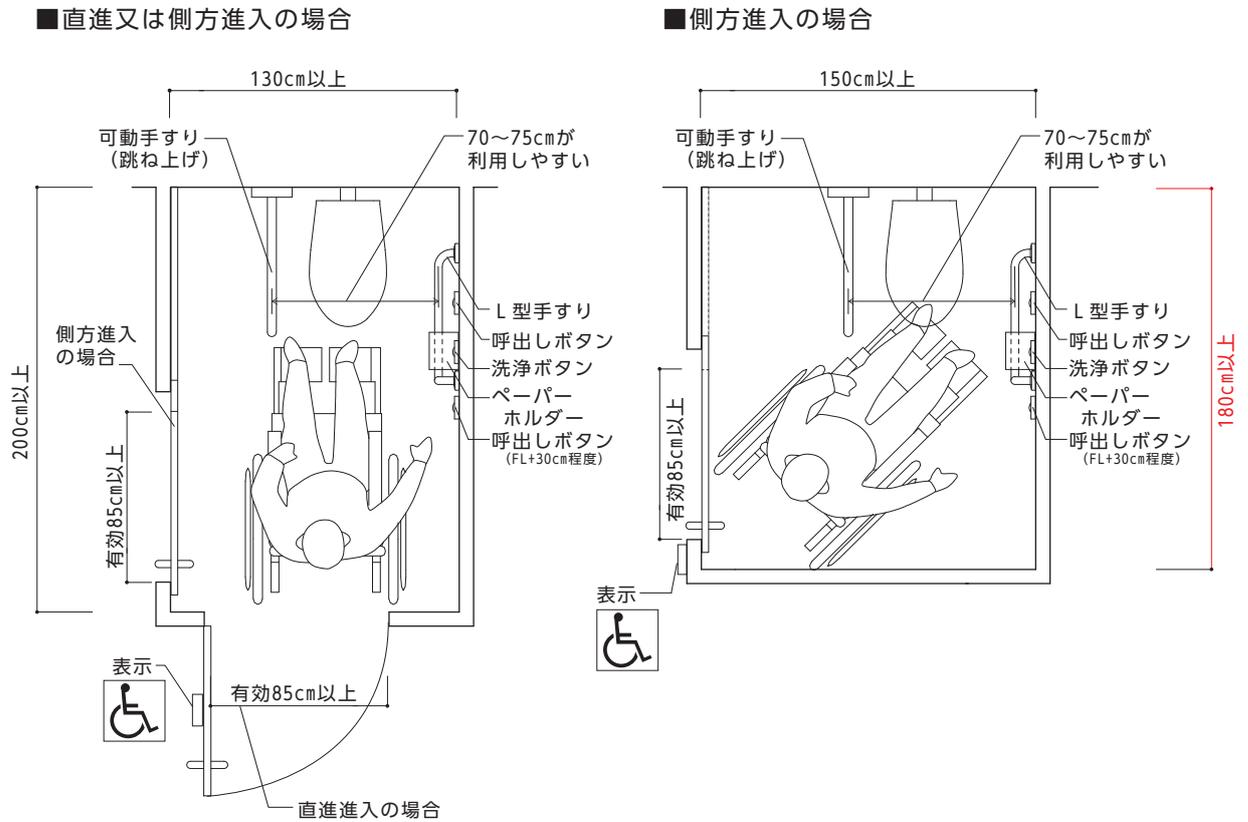
新 設

【図8.3】床面積2,000㎡以上の不特定多数の者が利用し、又は主として高齢者、障害者等が利用する建築物を建築する場合に設ける車椅子使用者用便房の例



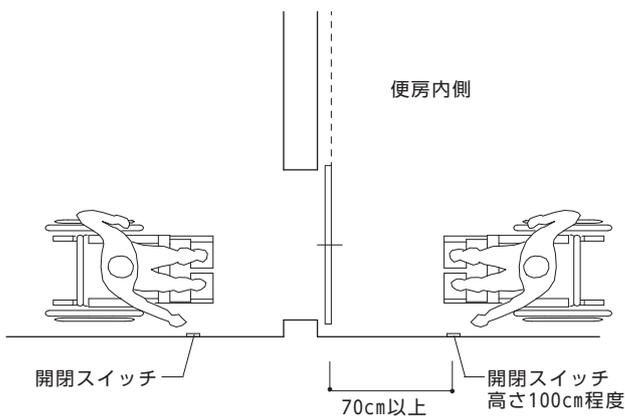
《 参 考 図 》

【図8.4】簡易型車椅子使用者用便房の例

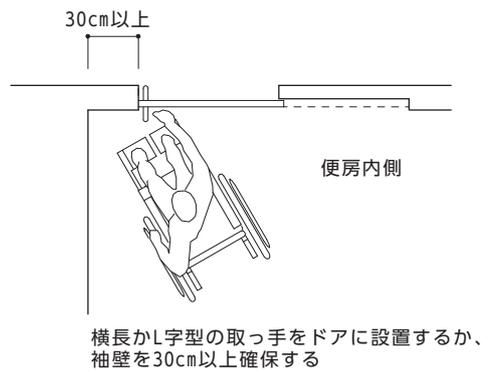


【図8.5】開閉ボタンや扉の取っ手の設置位置

■自動ドア (引き戸) の場合



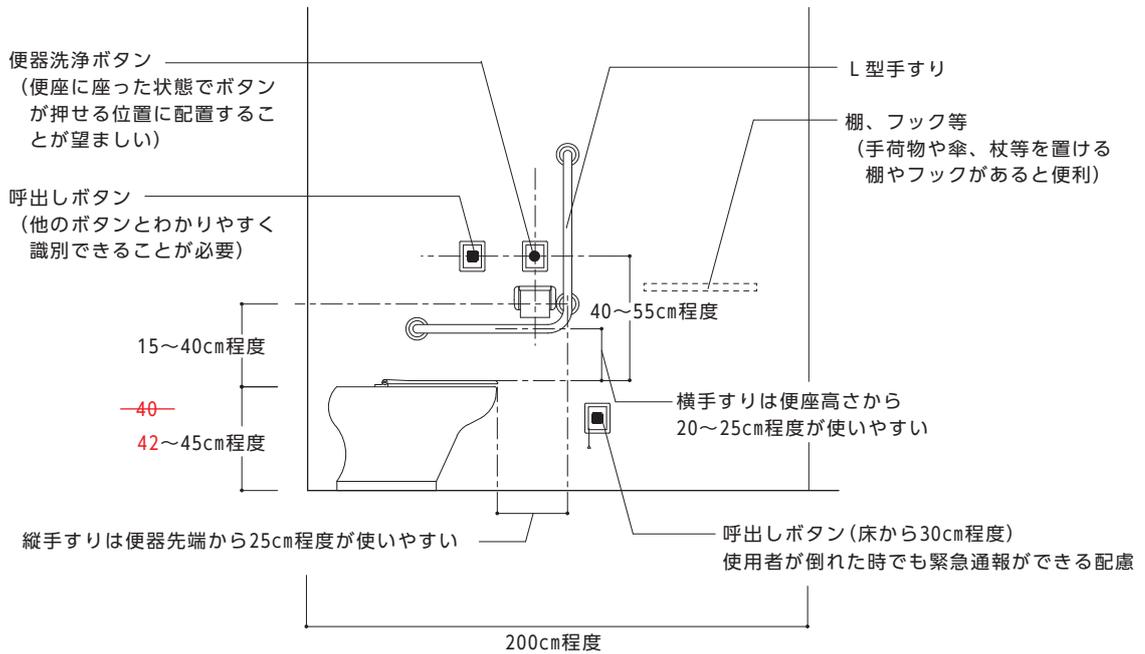
■手動ドア (引き戸) の場合



《 参 考 図 》

~~【図8.5】~~

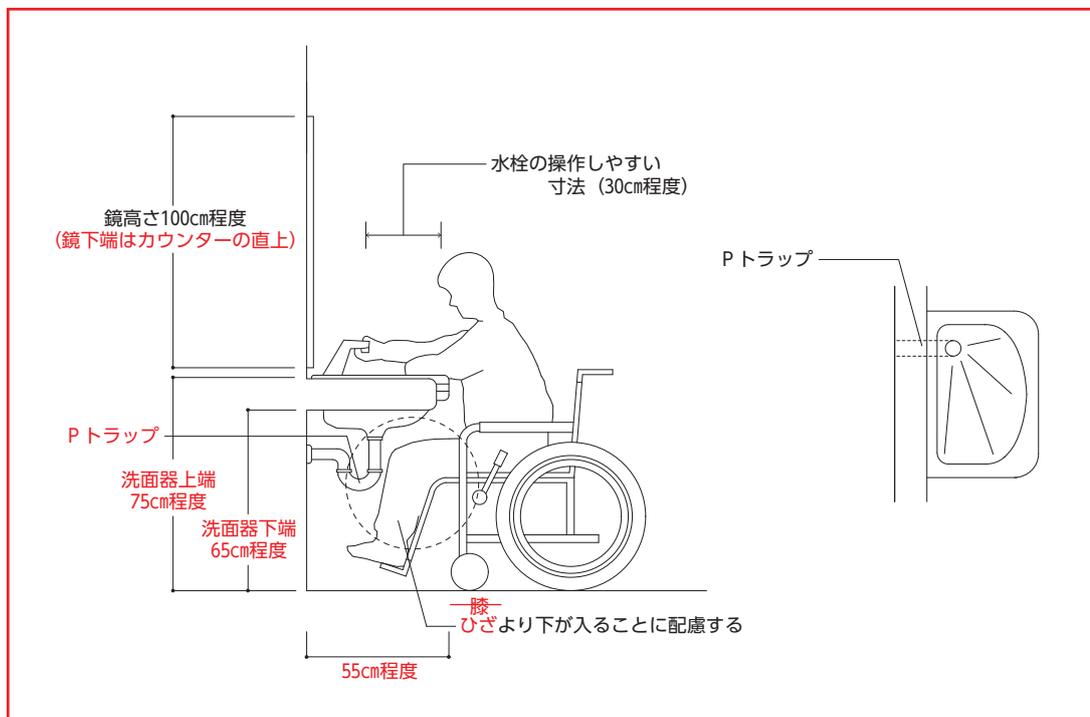
【図8.6】 ボタンの配置例



※ペーパーホルダー、便器洗浄ボタン、呼出しボタンはJIS S 0026参照

~~【図8.6】 車いす~~

【図8.7】 車椅子使用者が利用しやすい洗面台

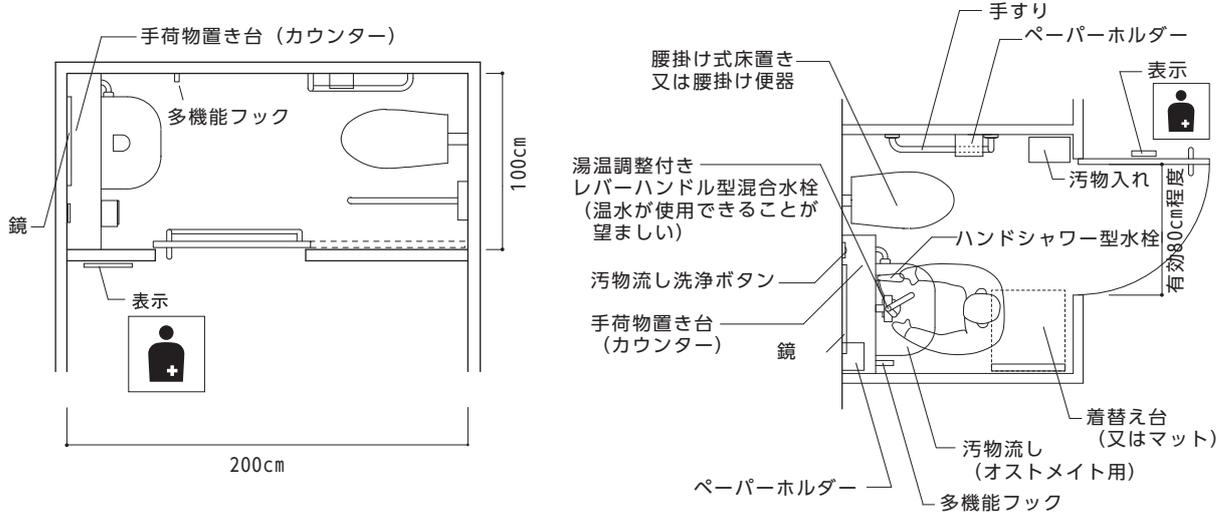


《 参 考 図 》

【~~図8.7~~】

【~~図8.8~~】 オストメイト用汚物流しを設けた例

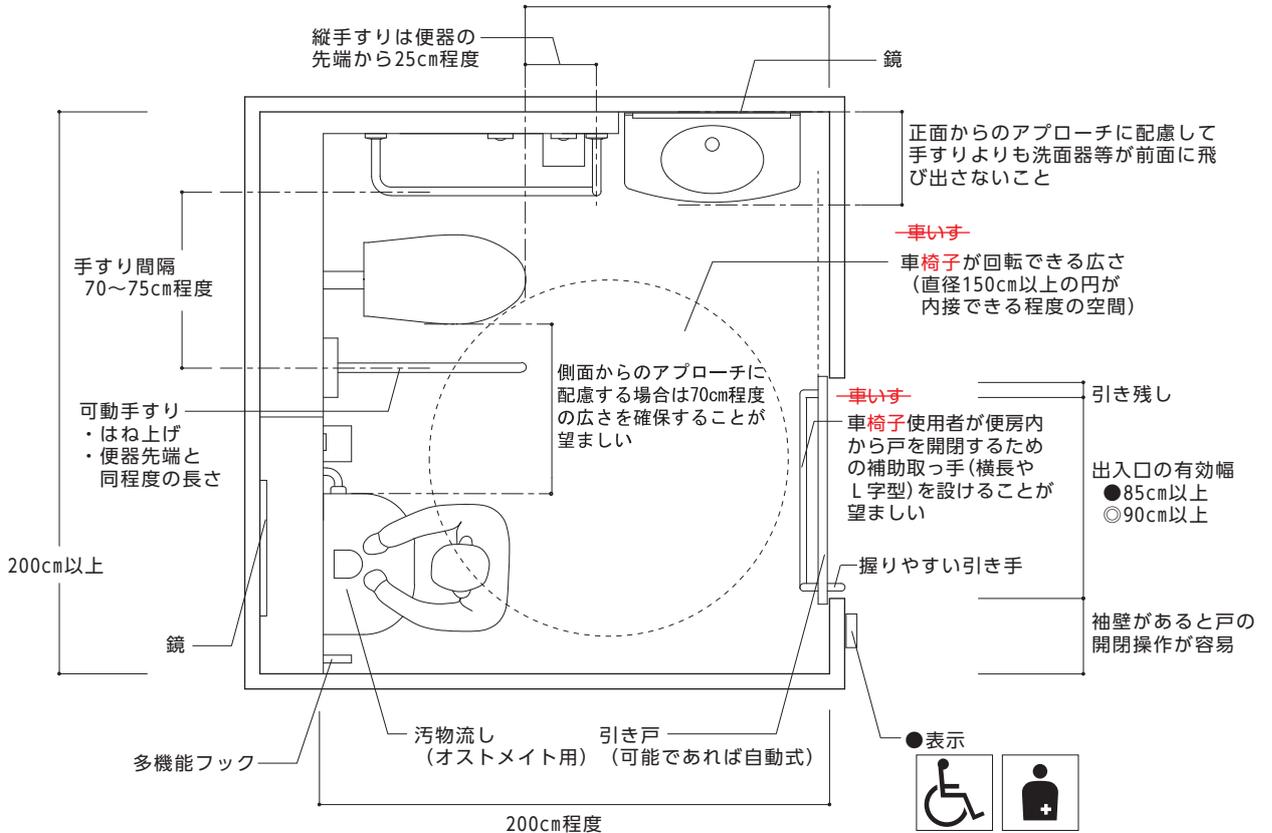
■一般便房に設けた場合



—車いす—

■車椅子使用者用便房に設けた場合

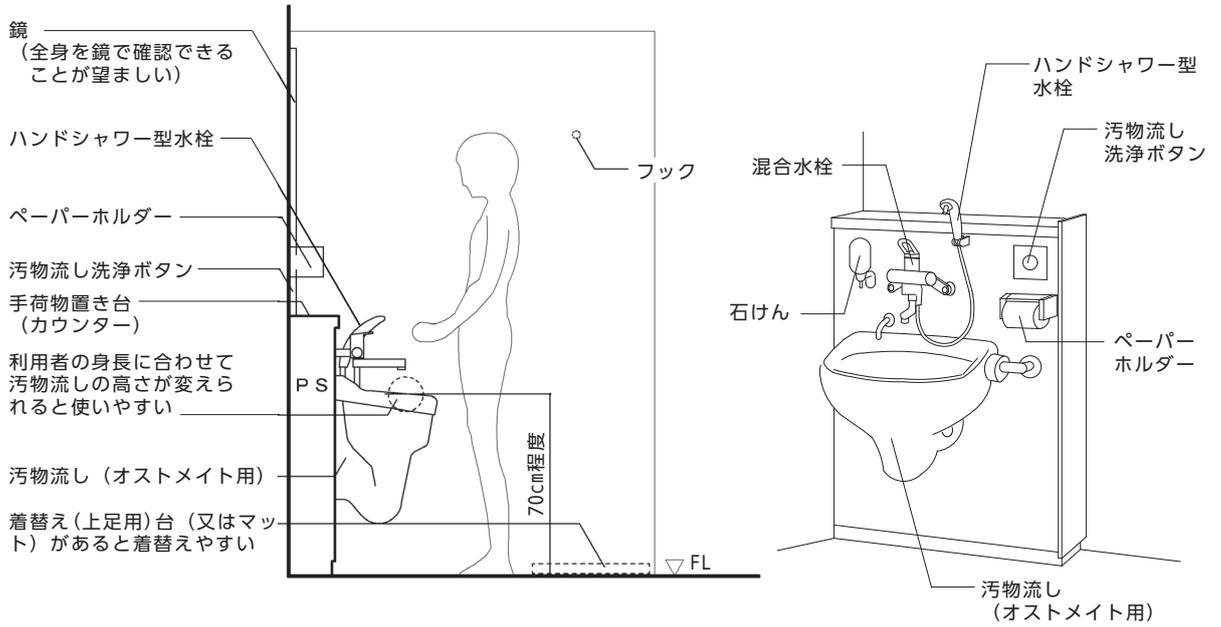
正面からのアプローチに配慮する場合は
120cm程度のスペースを確保する必要がある



《 参 考 図 》

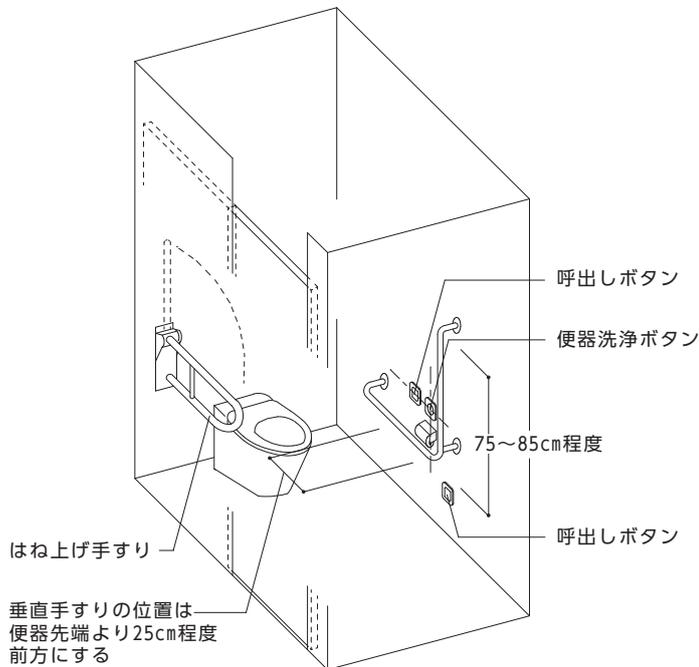
~~【図8.8】~~

【図8.9】 オストメイト用汚物流しの例



~~【図8.9】~~

【図8.10】 大便器の手すりの例



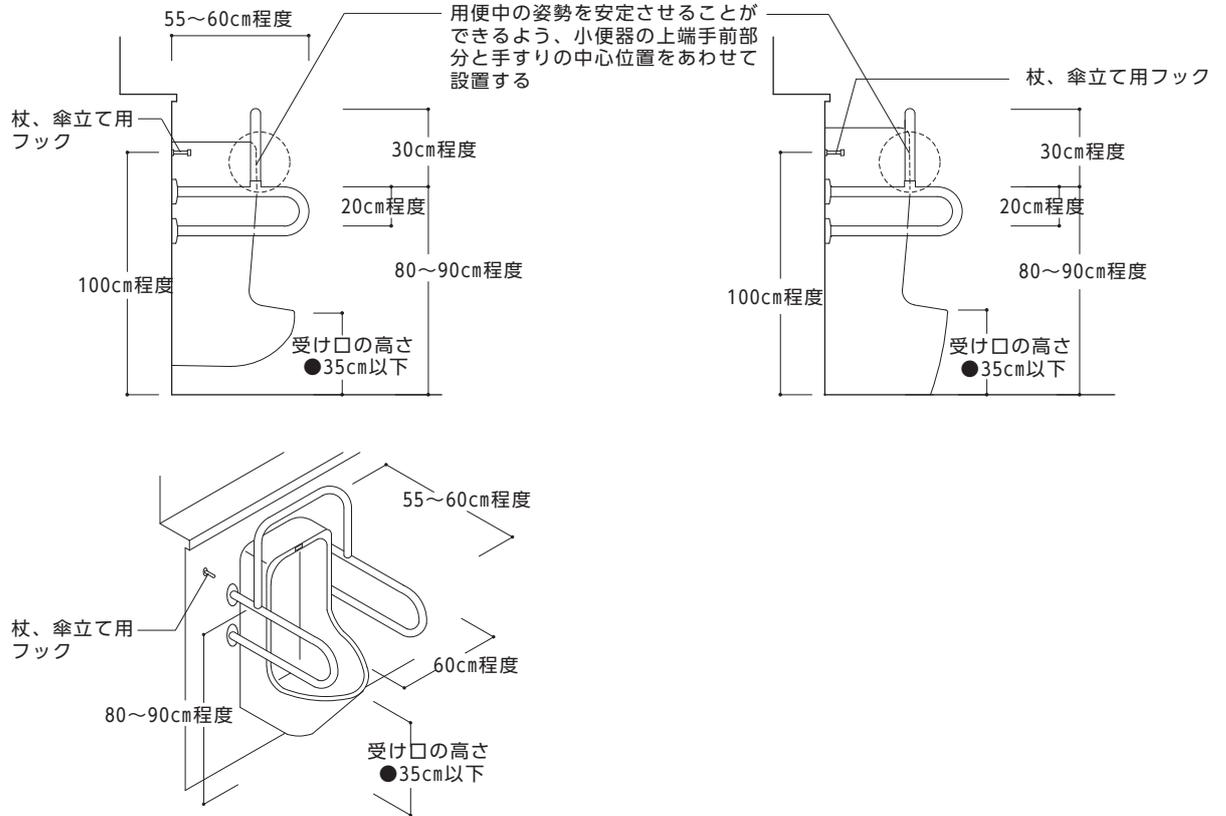
《 参 考 図 》

【図8.10】

【図8.11】 小便器の手すりの例

■壁掛式低受け口

■床置き式ストール



【図8.11】

【図8.12】 視覚障害者に配慮した便所の案内板の例

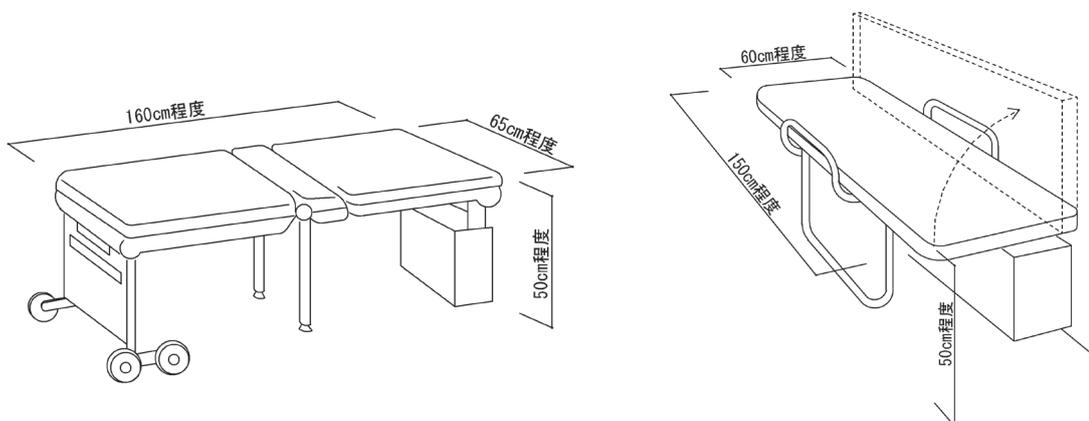


・触知案内図はJIS T 0922 に準じる。

《 参 考 図 》

~~【図8.12】~~

【図8.13】 折り畳み式介助用ベッドの例（幼児～大人まで：折り畳み収納型）

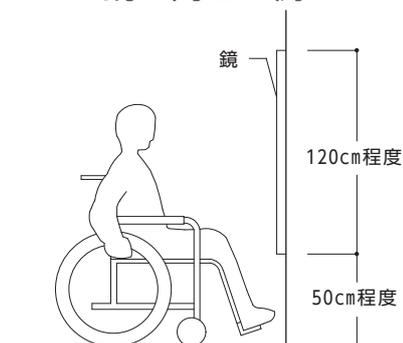


~~【図8.13】~~

【写真8.1】 背もたれ

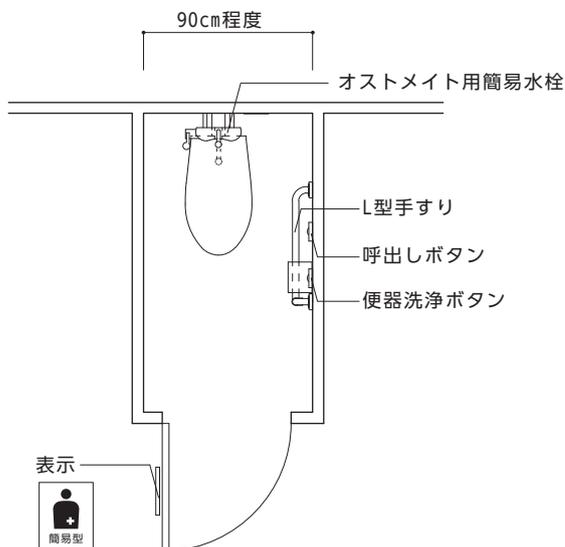


【図8.14】 便房内の身づくろい用鏡の高さの例



~~【図8.14】~~

【図8.15】 オストメイト用簡易水栓を設けた例



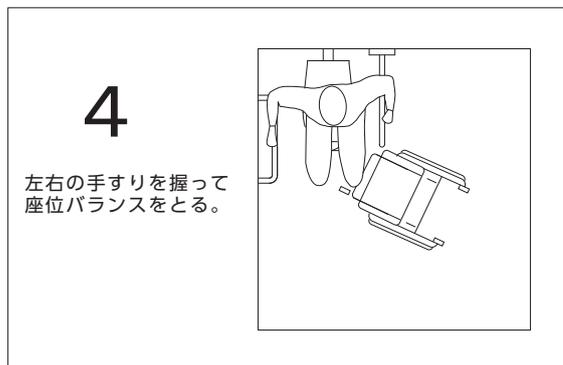
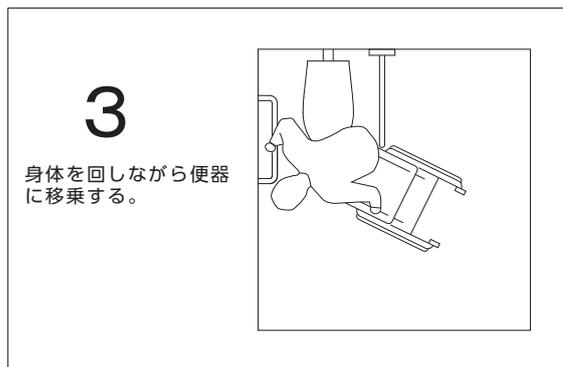
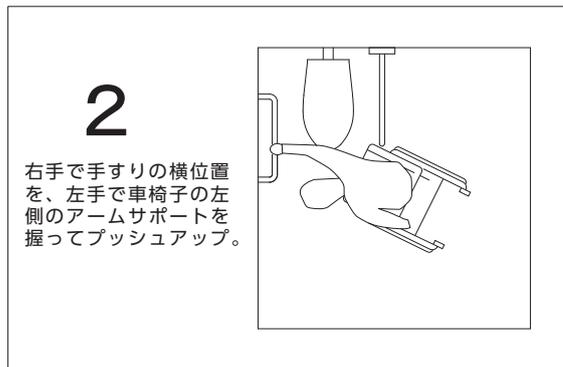
《 参 考 図 》

~~【図8.15】~~

【図8.16】 車椅子による便器へのアプローチの例

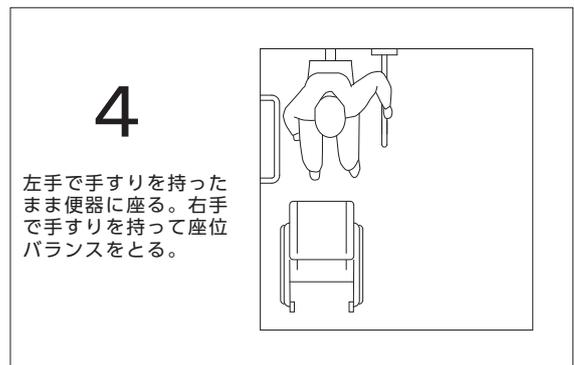
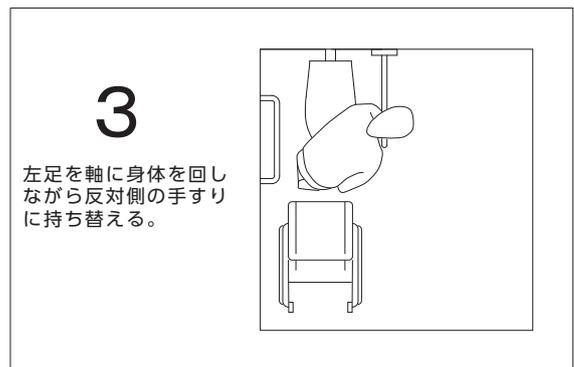
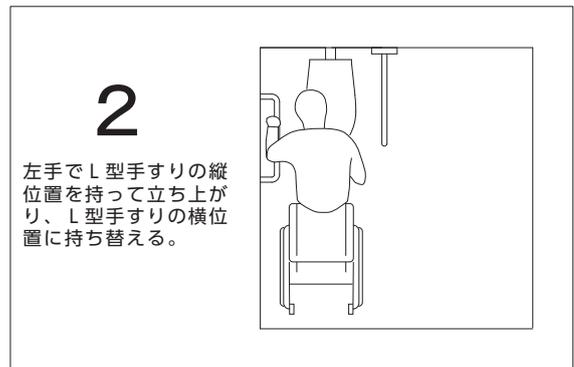
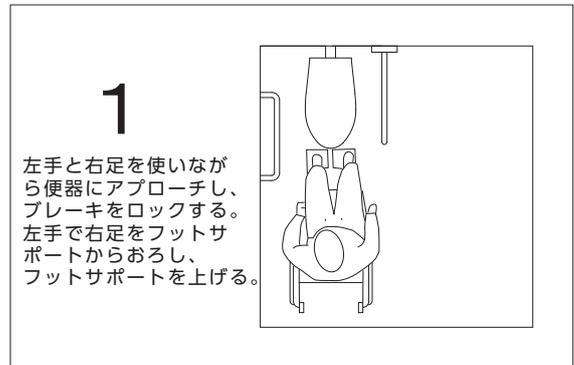
■便器へ斜めからアプローチする例

(腕の力だけで身体を支えることができる人の場合の一例)



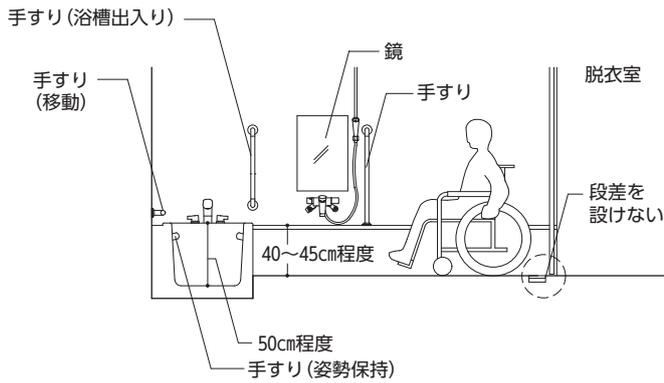
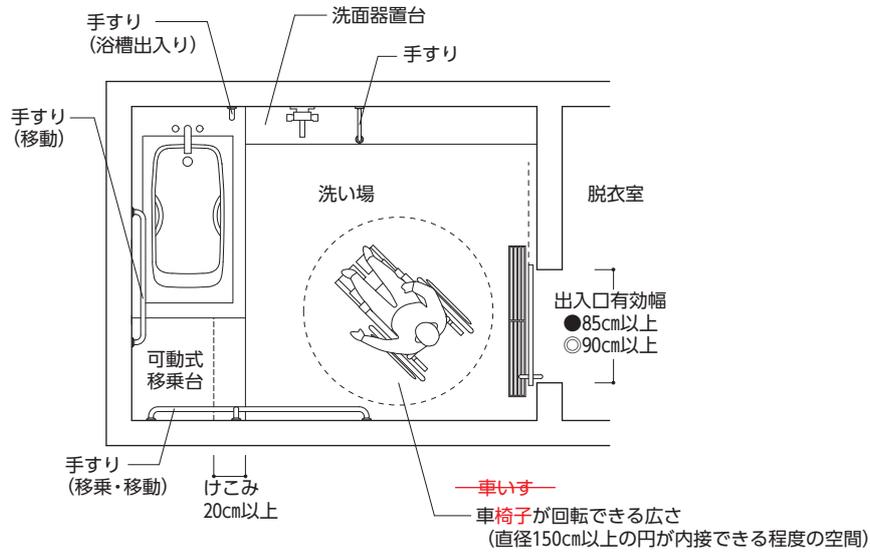
■便器へ正面からアプローチする例

(多少、足に体重をかけることができる人の場合の一例)



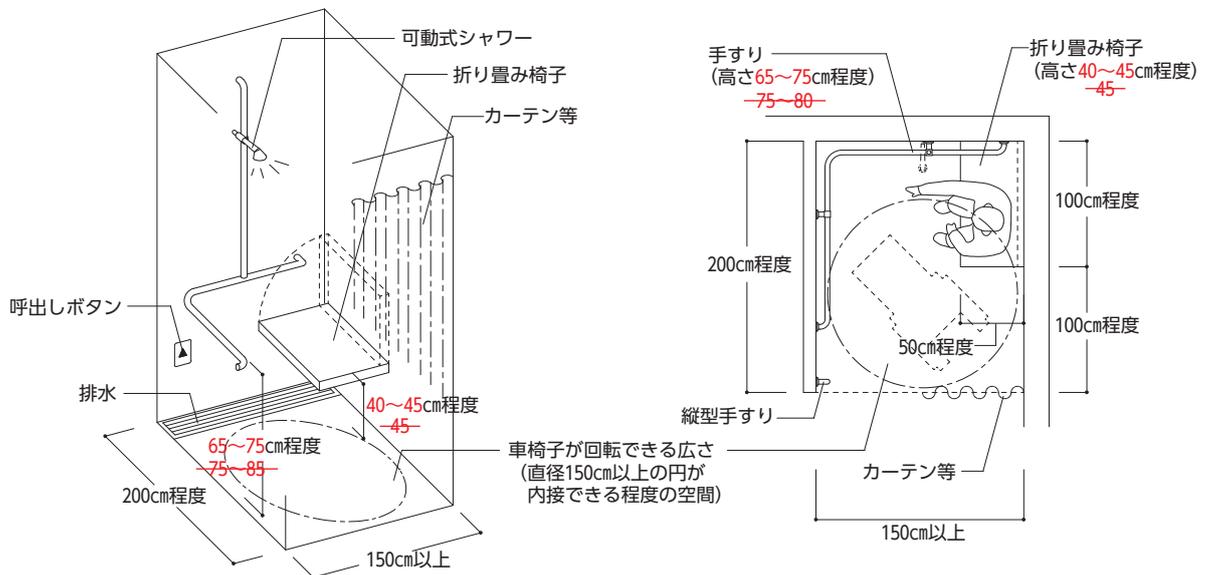
《 参 考 図 》

【図9.1】 小規模な浴室の例



車いす

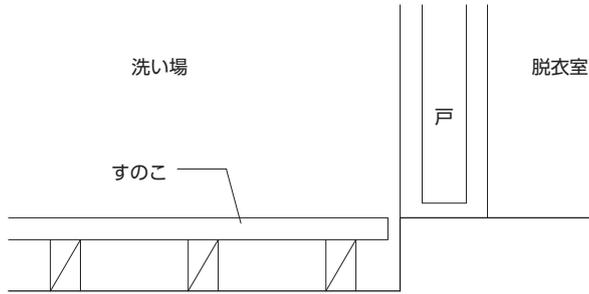
【図9.2】 車椅子使用者ブースの例



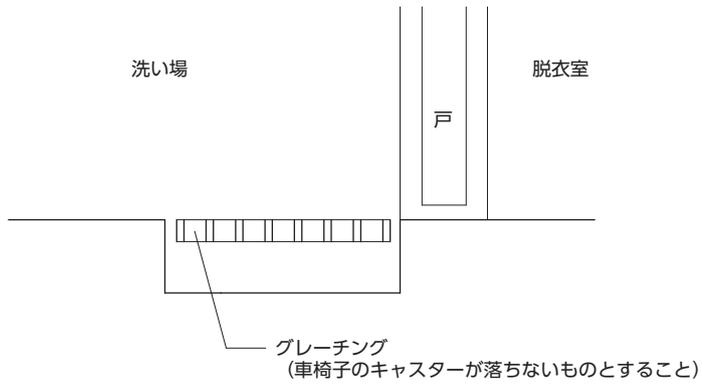
《 参 考 図 》

【図9.3】 出入口の段差解消例

■すのこによる場合



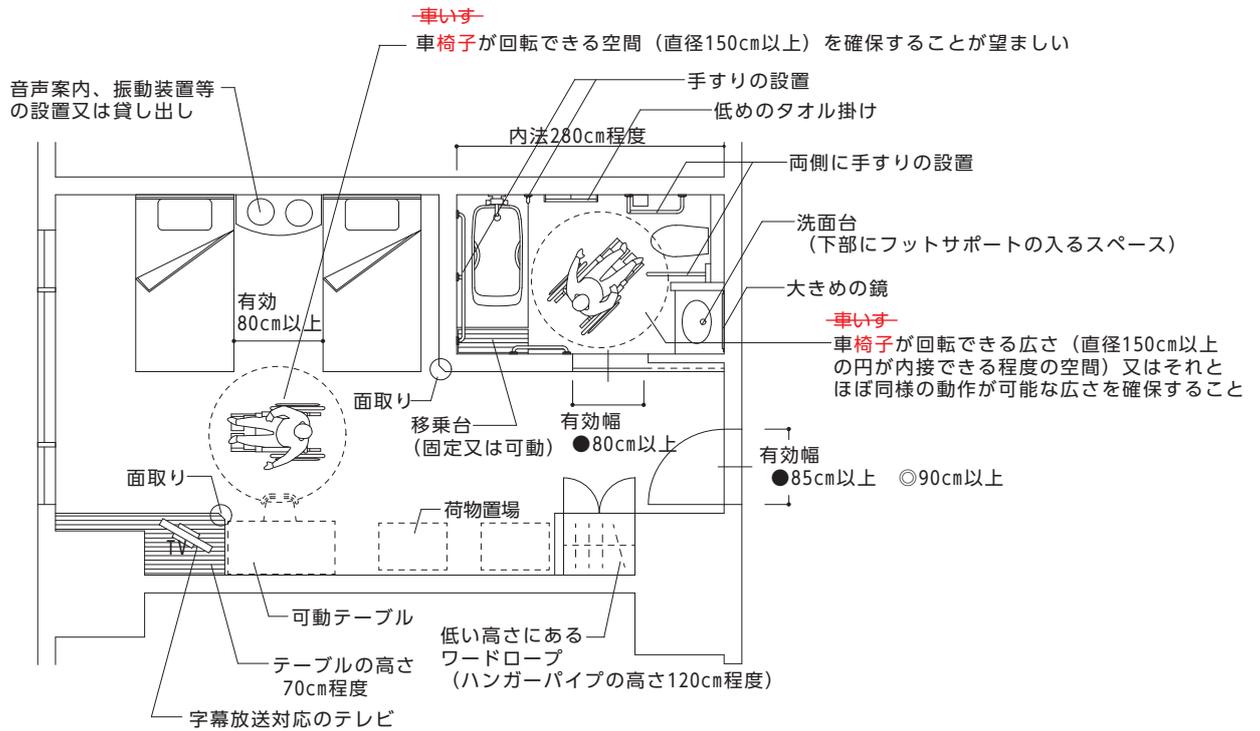
■グレーチングによる場合



《 参 考 図 》

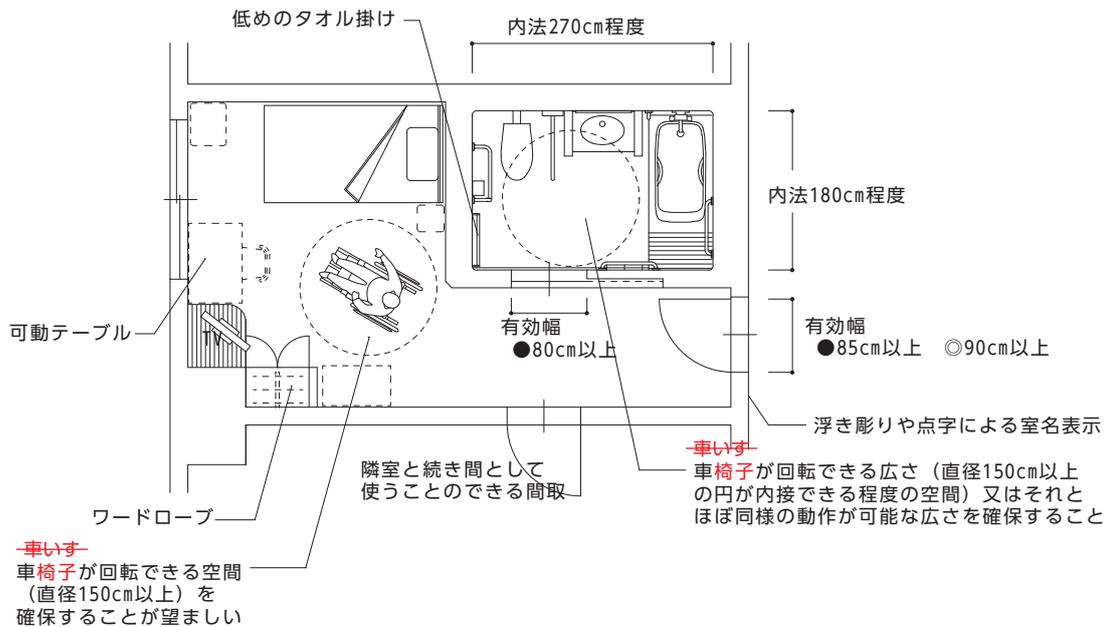
~~車いす~~

【図10.1】 車椅子使用者用客室（ツインルーム）の例



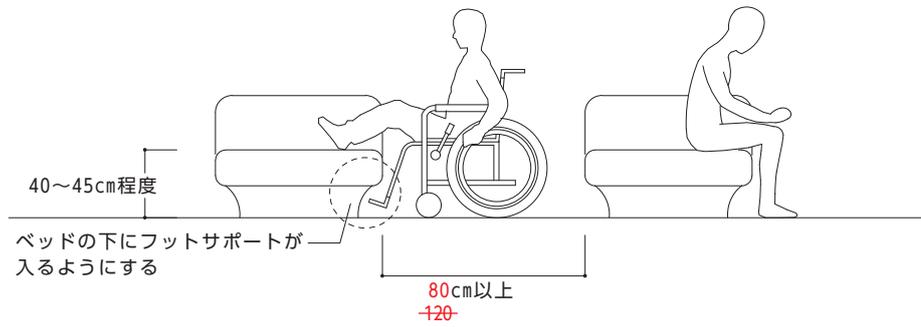
~~車いす~~

【図10.2】 車椅子使用者用客室（シングルルーム）の例



《 参 考 図 》

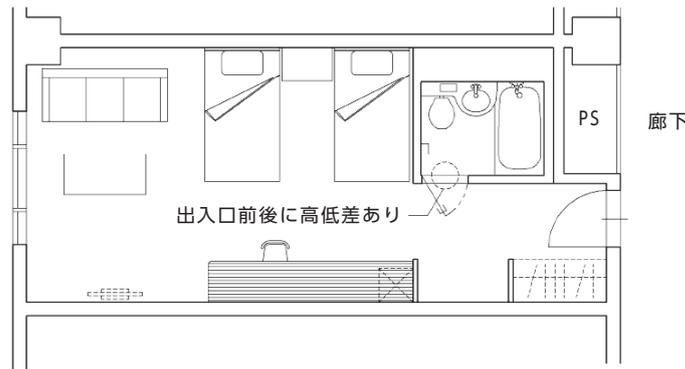
【図10.3】 ベッドの高さ



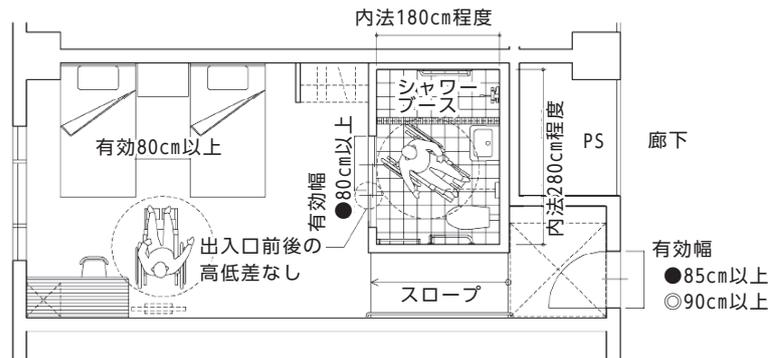
車いす

【図10.4】 一般客室1室を車椅子使用者用客室1室に改善する例

■改善前



■改善後

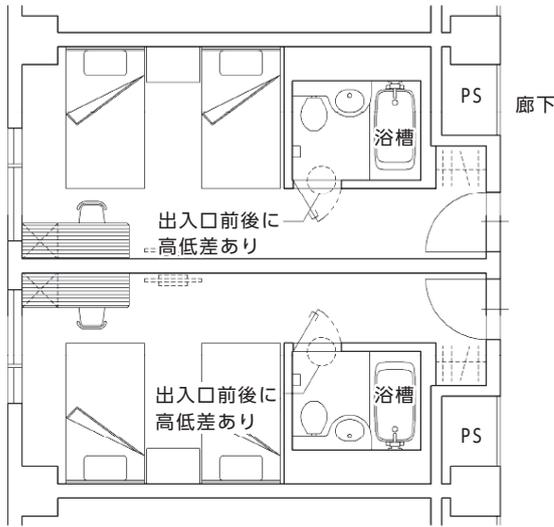


《 参 考 図 》

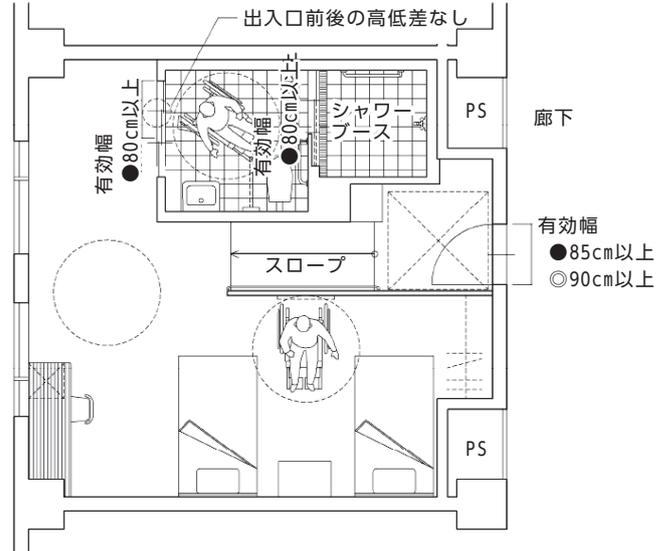
車いす

【図10.5】 一般客室2室を車椅子使用者用客室1室に改善する例

■改善前



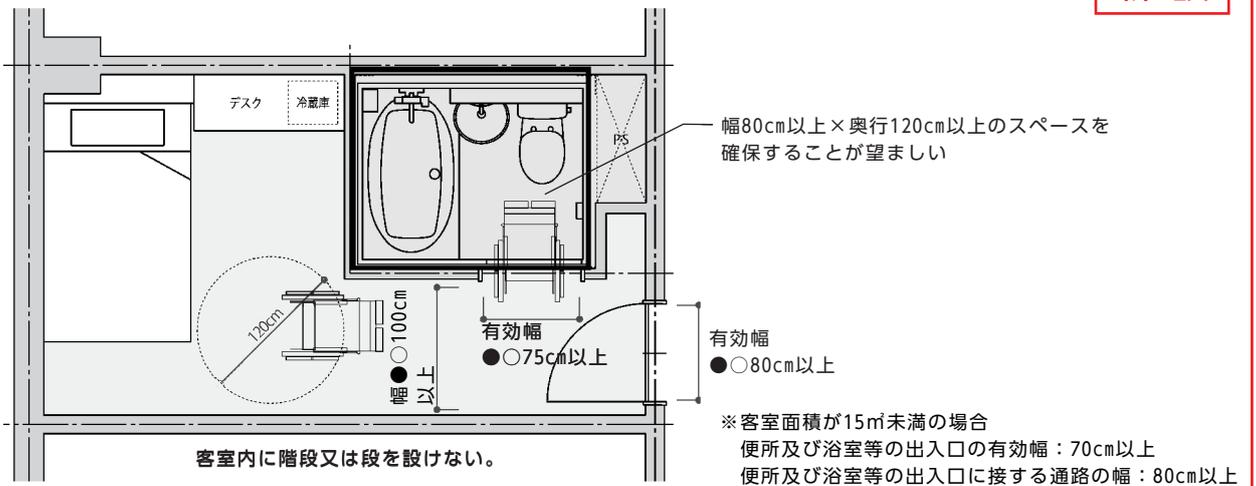
■改善後



出典：高齢者、障害者の円滑な移動等に配慮した建築設計標準（国土交通省 平成29年3月）

【図10.6】 一般客室の例（客室面積15㎡）

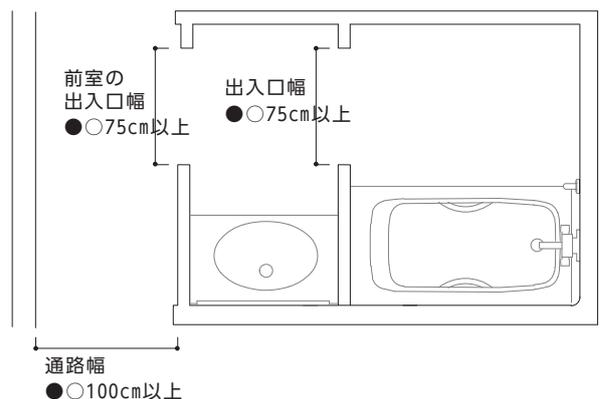
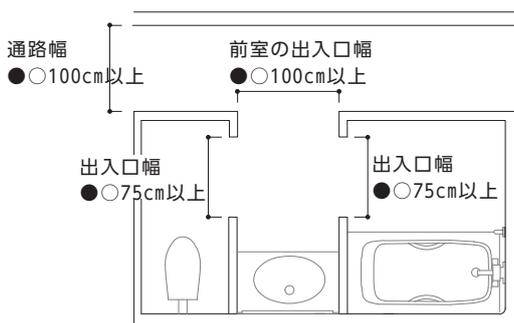
新設



【図10.7】 一般客室の便所及び浴室等の出入口、通路の例

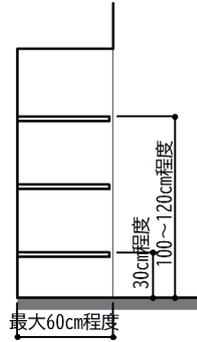
■客室面積15㎡以上

■客室面積15㎡以上（直角に曲がることなく 便所及び浴室等に到達できる場合）

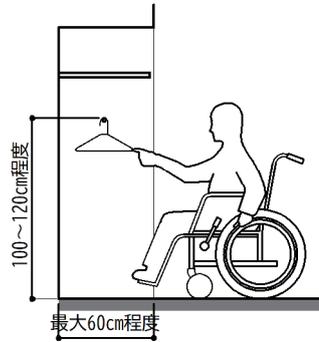


【図10.8】 収納の例

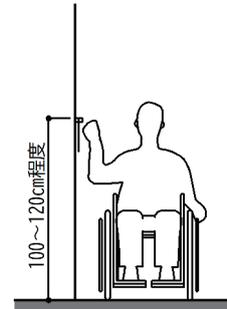
■ 棚



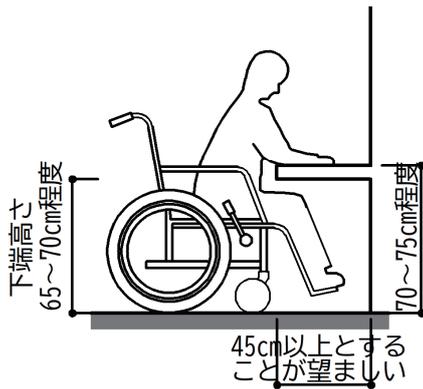
■ ハンガーパイプ



■ フック（壁掛け）



【図10.9】 カウンターの例



《 参 考 図 》

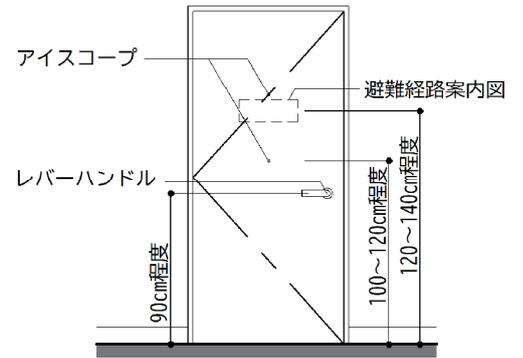
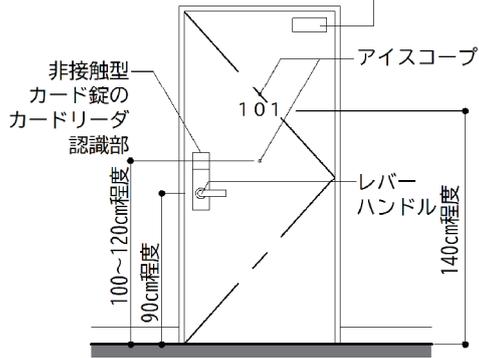
新設

【図10.10】 客室出入口の開き戸の例

■廊下側の例

■客室側の例

戸が90度以上開くようドアクローザーの収まるスペースを確保し、戸当たりの位置を工夫するとともに、取っ手が壁にあたらないよう、戸の吊元のスペースを確保することが望ましい。

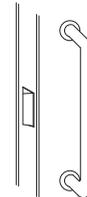
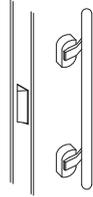
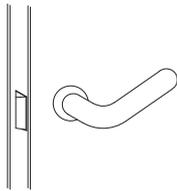


【図10.11】 ハンドルの例

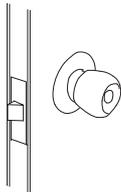
■レバーハンドル ○

■プッシュプルハンドル ○

■棒状 ○

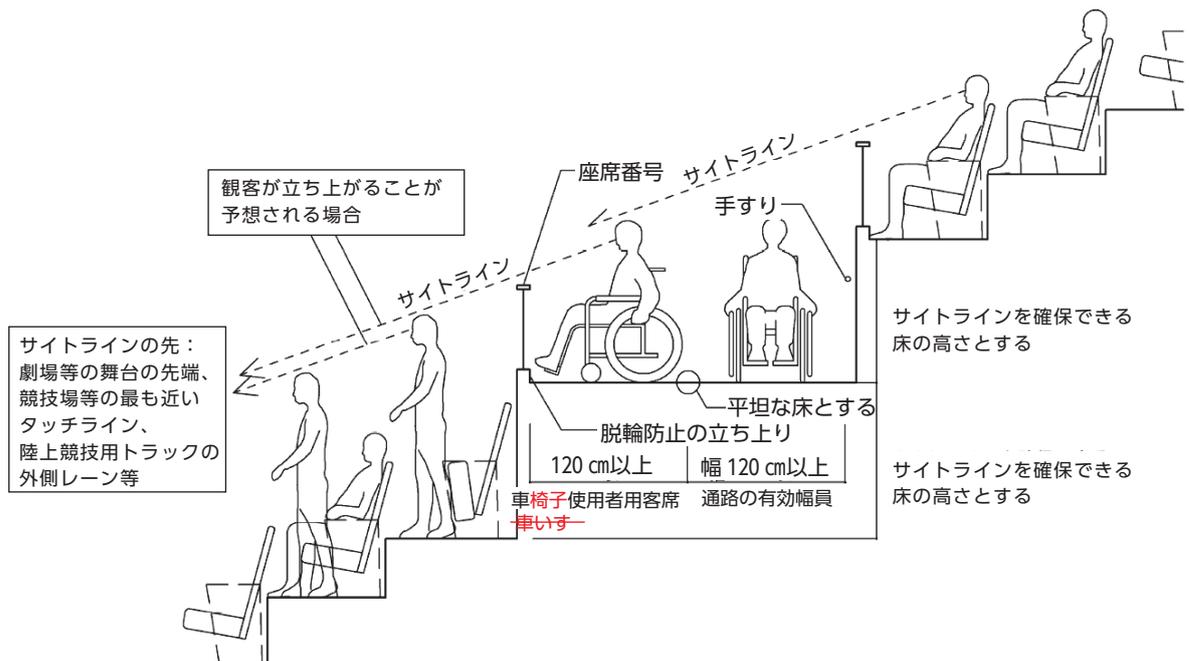
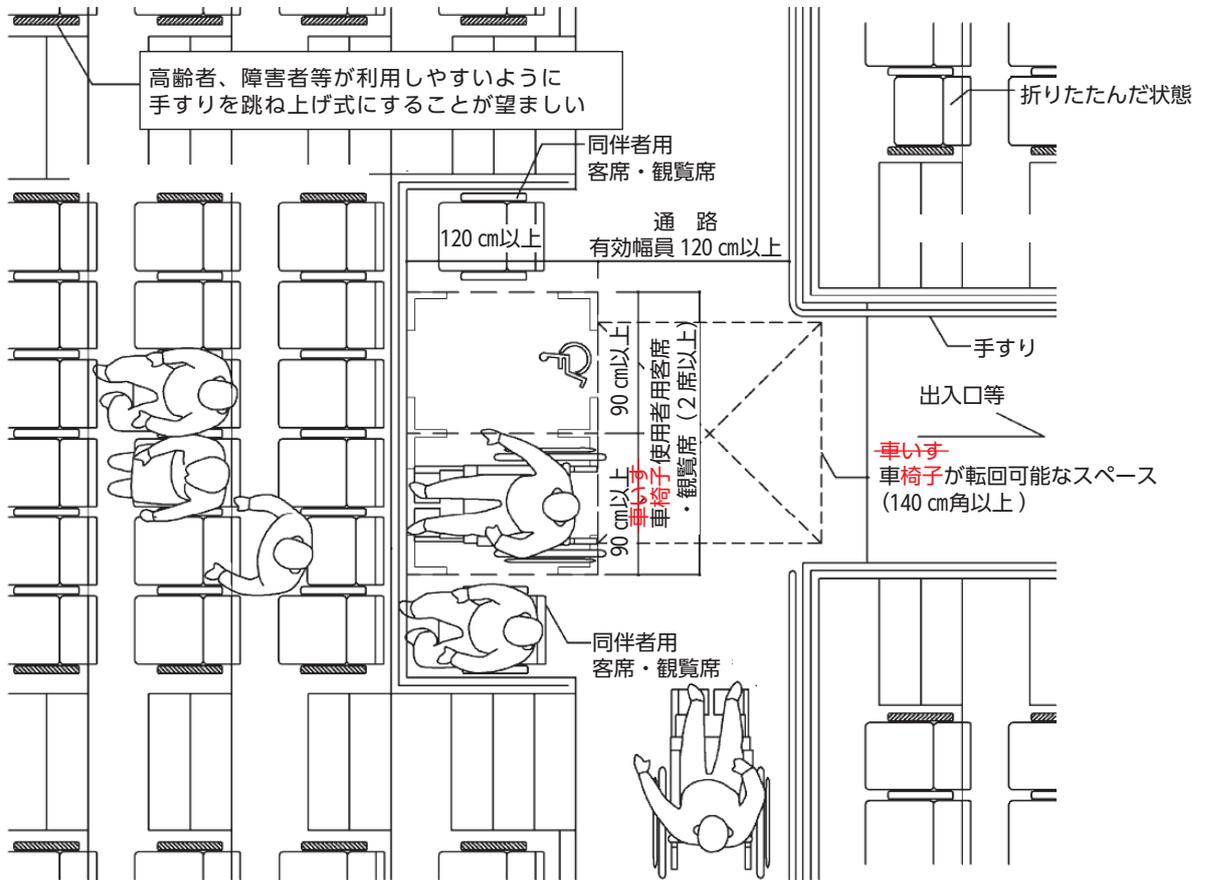


■握り玉 ✕



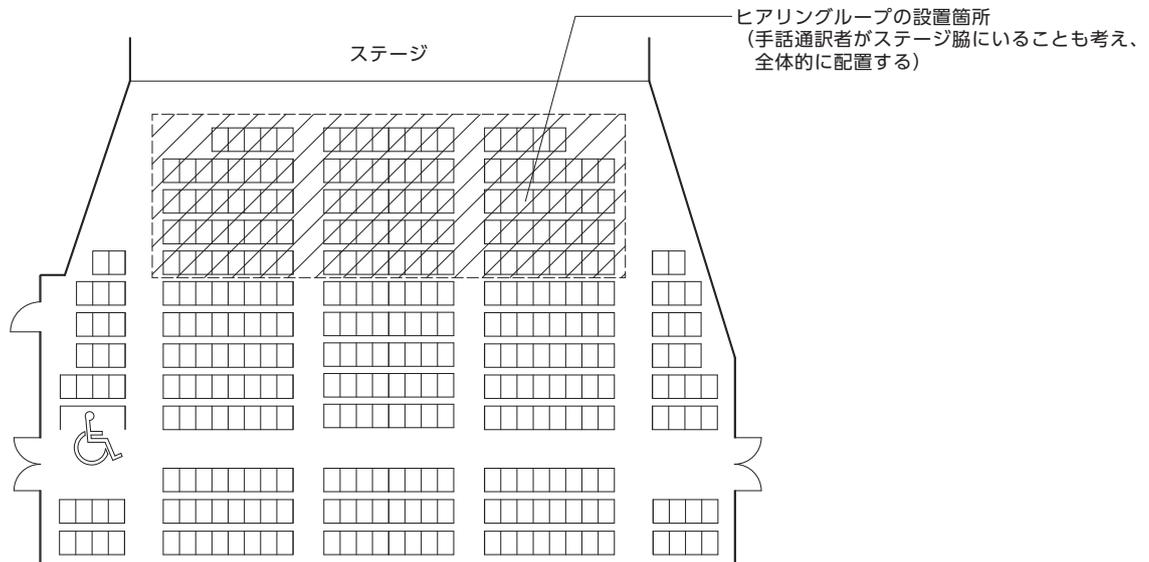
《 参 考 図 》

【図11.1】 観覧席・客席の例



《 参 考 図 》

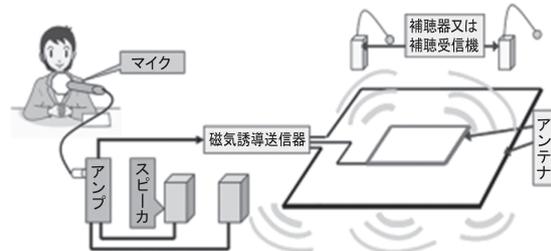
【図11.2】 ヒアリンググループ（磁気ループ）の設置例



ヒアリンググループ（磁気ループ）

聴覚障害者や聴力の弱い高齢者などで補聴器を使用している方が、広い空間や騒音の多い場所において、音声を正確に聞き取るために聴力を補うための集団補聴設備の一種。ヒアリンググループは、客席の床面等に、音声データから変換された磁気を発生させるワイヤーをループ状に敷設し、ワイヤーから発生された磁気を、ループの内側にある補聴器で受信して音声信号に変えることで、目的の音声を届けることができる設備。

建物施工時に、ワイヤーを床下や天井に埋設・固定する「常設型」と、持ち運び可能な磁気発生アンプと巻き取り式のワイヤーを用いて必要な場所にループを設置できる「移動型」がある。なお、ヒアリンググループ内で音声を聞き取るためには、補聴器をTモードにすることが必要。



《 参 考 図 》

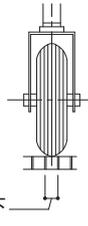
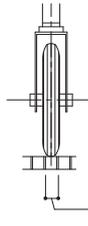
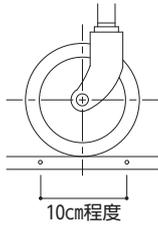
車いす
【図12.1】 車椅子の前輪が落下しない配慮

■車椅子前輪の大きさ
 車いす

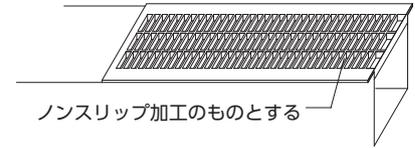
■手動車椅子
 車いす

■電動車椅子
 車いす

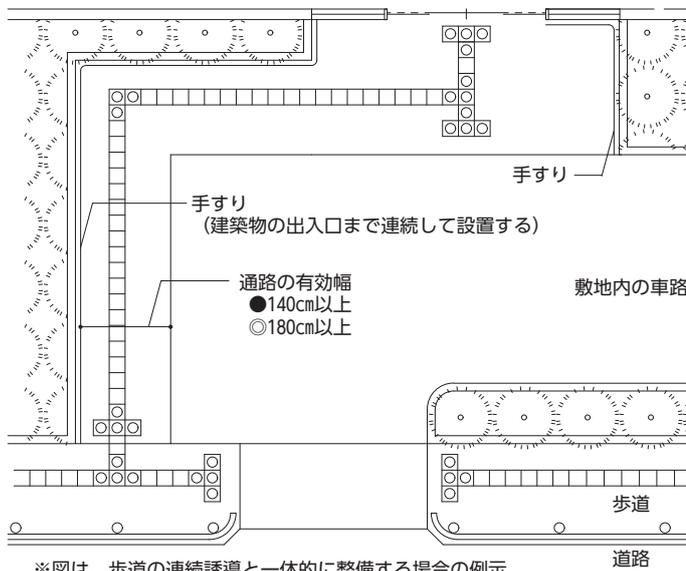
■蓋の概要
 ふた



すき間10mm以下



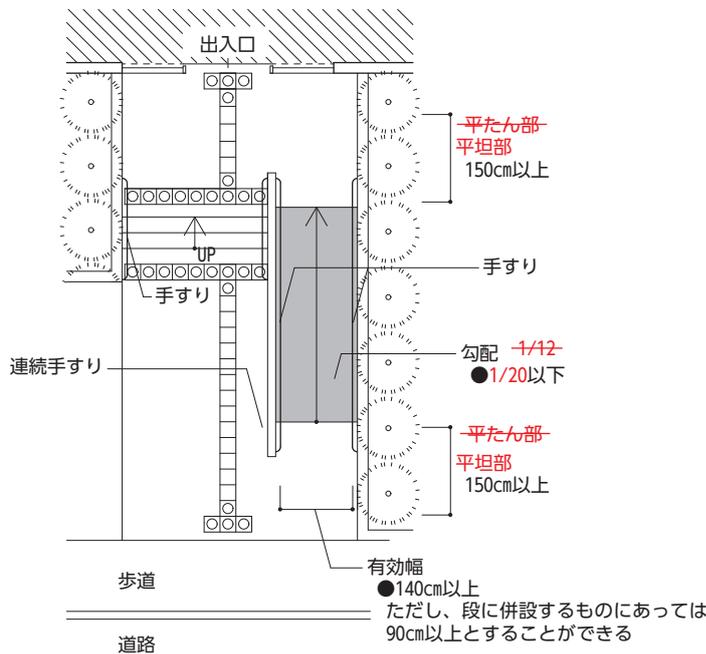
【図12.2】 敷地内の通路



- 敷地内の車路とは別に通路を設ける
- 視覚障害者誘導用ブロックを敷設する (原則黄色)

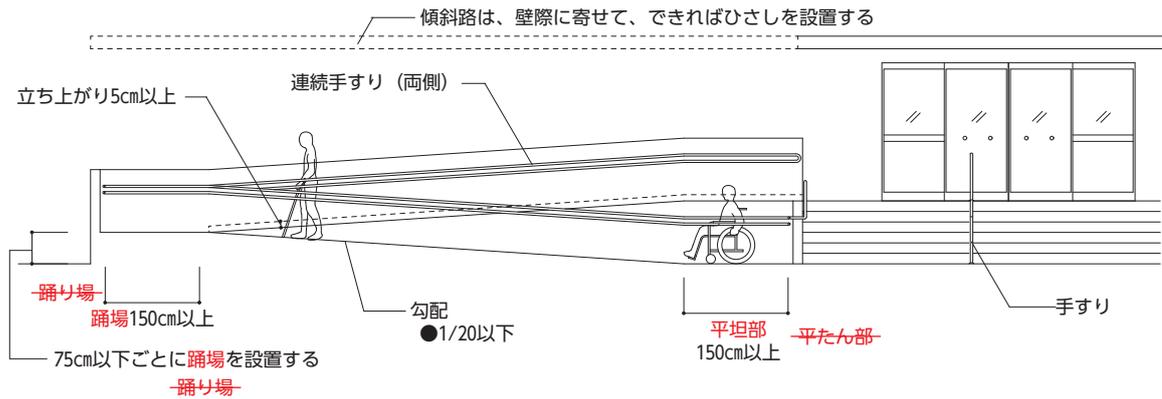
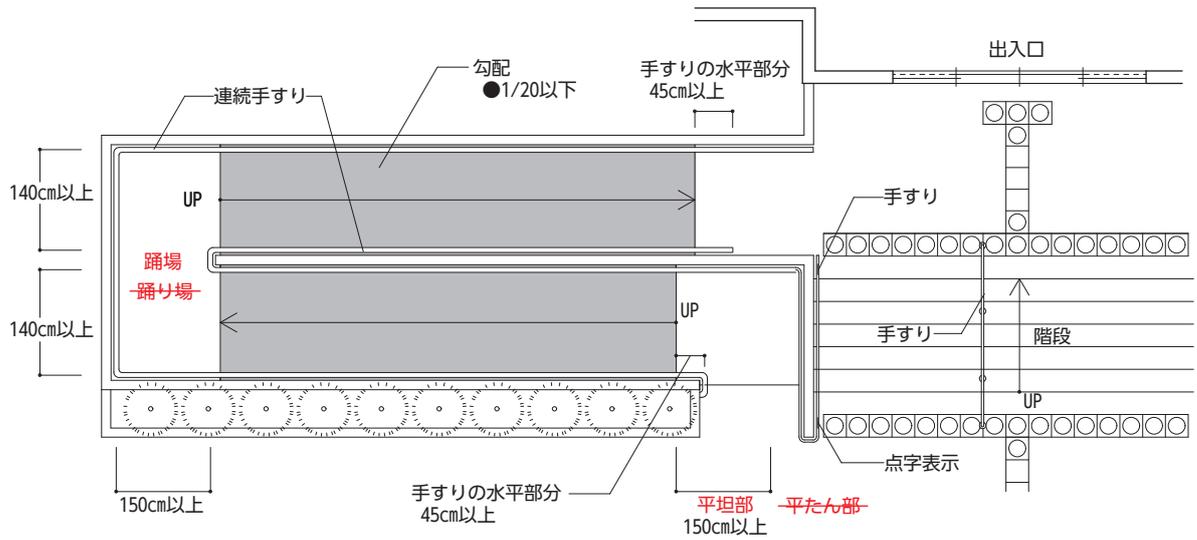
※図は、歩道の連続誘導と一体的に整備する場合の例示
 歩道が切り下げ形式である場合、歩道の誘導用ブロックは連続して敷設させる

【図12.3】 階段と傾斜路を併設した敷地内の通路



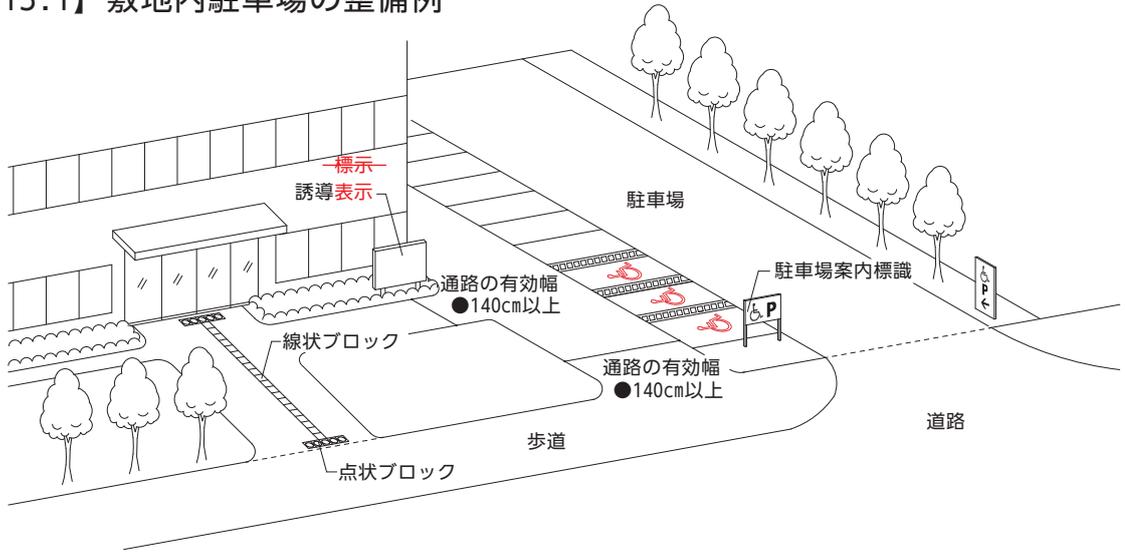
《 参 考 図 》

【図12.4】敷地内の通路に傾斜路を設けた例

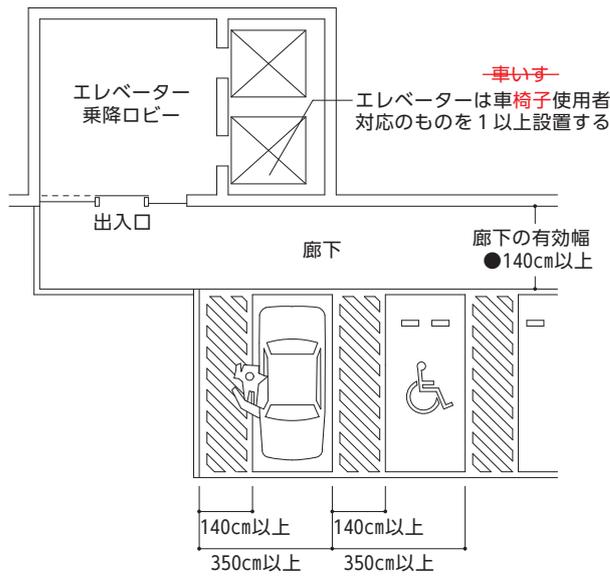


《 参 考 図 》

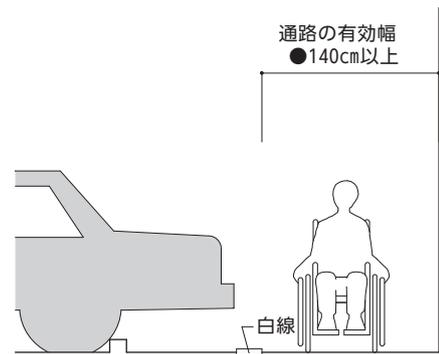
【図13.1】敷地内駐車場の整備例



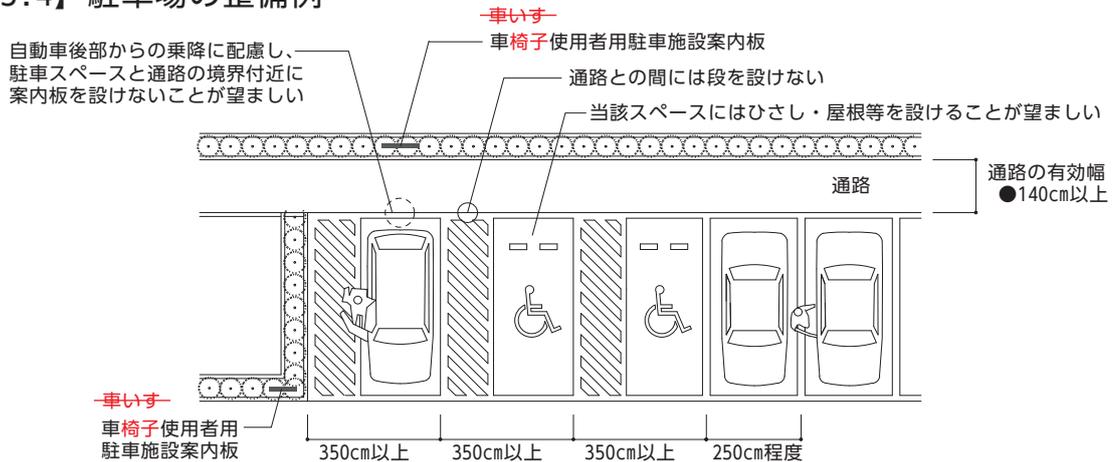
【図13.2】屋内駐車場の整備例



【図13.3】駐車スペース後ろに通路を設ける場合

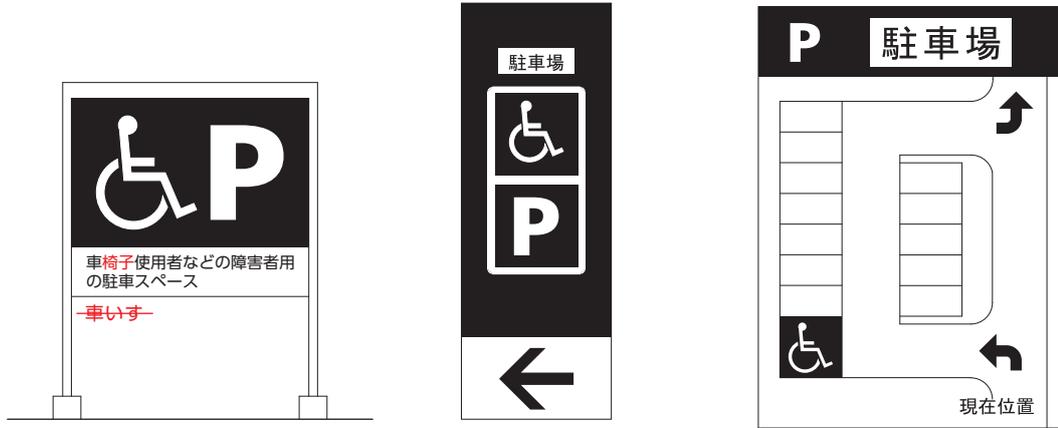


【図13.4】駐車場の整備例



《 参 考 図 》

【図13.5】立札による表示例



《コラム》

■機械式駐車場

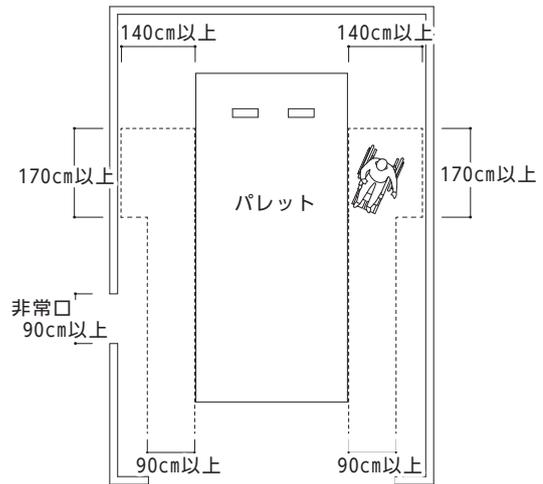
車椅子使用者用駐車施設は平置きを原則とする。ただし、敷地の状況等によりやむを得ず機械式駐車場に車椅子使用者用駐車施設を設ける場合には、整備基準に適合するものとし、高齢者、障害者等が車の乗降に支障なく、円滑に利用できるものとする。そのため、車椅子使用者が管理人等の介助がなくても自力で乗降できるものとし、人的介助のみを前提とした通常の機械式駐車場は該当しない。また、当該車椅子使用者用駐車施設から利用居室等までの経路は移動等円滑化経路等、当該車椅子使用者用駐車施設から各住戸までの経路は特定経路等となるため、経路上に段差を設けてはならない。

さらに、機械式駐車場技術基準のバリアフリー対応駐車装置の基準を参考とする。

【参考】機械式駐車場技術基準（主な内容）

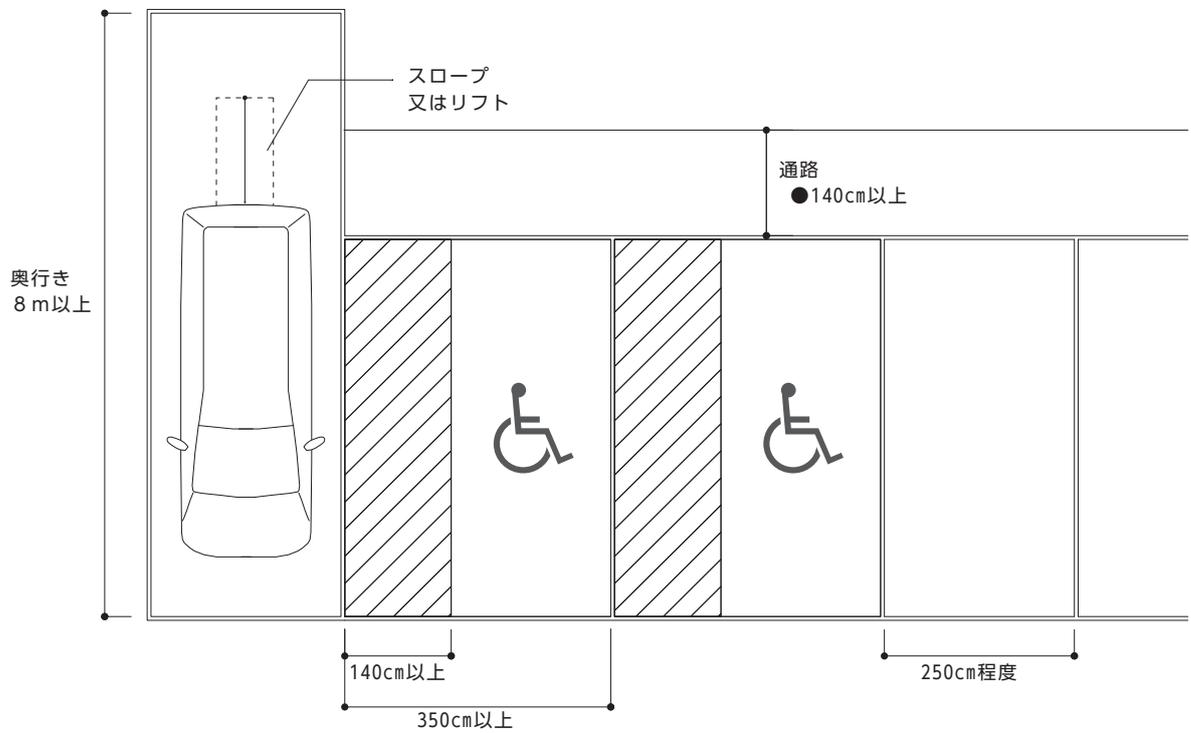
- ・人の通路は、幅90cm以上、高さ190cm以上、段差及びすき間は2cm以下とすること。
- ・非常口へ通ずる通路も上記に準ずることとし、非常口は、90cm以上、高さ190cm以上で、内側から容易に開けられるようにすること。
- ・自動車への乗降部分は車椅子の転回を考慮して、車椅子の進行方向に対して幅140cm以上、奥行き170cm以上の空間を確保すること。
- ・バリアフリー対応駐車装置の操作盤の少なくとも1面は、車椅子に乗ったままで操作できるよう床面から100cm程度の高さに設けること。
- ・一部の収容台数に対してバリアフリー対応駐車装置を適用する場合は、該当する搬器とそれ以外を識別できるように色分け、マーキング等の処置を施すこと。
- ・その他の基準については、「機械式駐車場技術基準・同解説 2017年版」（公益社団法人 立体駐車場工業会）を参照すること。

機械式駐車場に車椅子使用者用駐車施設を設けた例

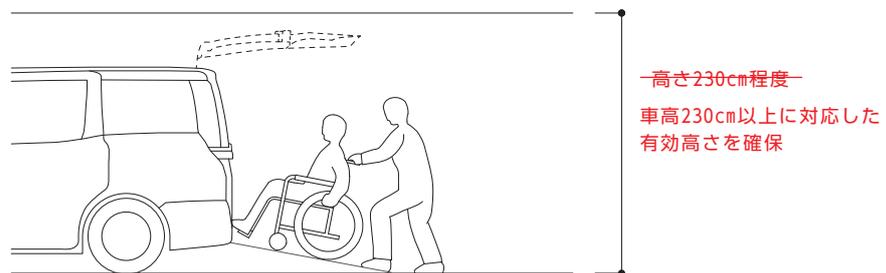


《 参 考 図 》

【図13.6】 奥行き 8 m以上の駐車スペースの例



【図13.7】 高さ230cm以上の例



《 参 考 図 》

【図13.8】 駐車施設に設置する看板の記載例

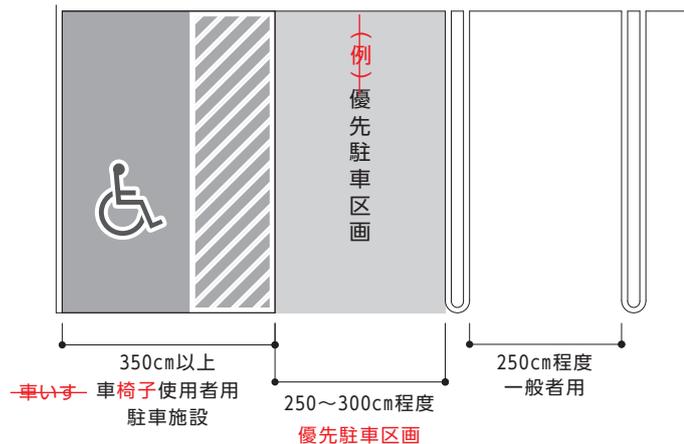
—車いす使用者ほど広いスペースを必要としない—
—歩行等に配慮が必要な人が利用できる区画—

	車いす 車椅子使用者用駐車施設	優先駐車区画
マーク	 —車いす—	 <必要に応じて>
説明文	この場所は、 <u>車椅子使用者など身体の不自由な方が利用する車両専用</u> です。一般の方は駐車をご遠慮ください。	この場所は、 <u>身体の不自由な方、身体内部に障害のある方など、車の乗り降りや移動に配慮が必要な方が利用する車両が優先</u> です。

優先駐車区画

- 定義
車椅子使用者用駐車施設とは別に、施設設置管理者等の取組として施設等の出入口近く等において提供されている、必ずしも広い幅員を必要としないものの移動に配慮が必要な者向けの駐車区画。
- 利用対象者
地域の実状や施設の利用状況により、障害者、高齢者、妊産婦等移動に配慮が必要な者を想定。
- 設置場所
可能な限り出入口に近い場所。
- 設置台数
各事業者の実情に応じて定める。
- 広さ
通常の駐車区画と同等（250cm程度）。可能であれば300cm程度とやや広めにする。
- 案内表示の設置
利用対象者の説明や、対象者を示すマークを看板に表示する。
- 区画の塗装
 - 車いす—① 車椅子使用者ほど広いスペースを必要としない歩行等に配慮が必要な人が利用できる旨を表示をする。
 - 車いす—② 車椅子使用者用駐車施設とは別の色（緑色など）で床面全体を塗装し目立たせる。
 - ③ 対象者を表すシンボルマークを塗装する（障害者のための国際シンボルマークは表示しない。）

【区画の整備例】



—車いす使用者ほど広い—
—スペースを必要としない—
—歩行等に配慮が必要な人が—
—利用できる区画—

ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、都が作成したマーク。

